

姉属性専門誌

# 全姉連会報

## 創刊号

### 2003

# 姉ゲー総レビュー

『姉、ちゃんとしようよっ!』

『お姉ちゃんの3乗～おねえちゃんきゅーば～』

『アネモネ』『ドキドキお姉さん』

『ちょこれ～とDays』『人妻コスプレ喫茶』

『チェリーボーイにくびったけ』

『Crescendo～永遠だと思っていたあの頃～』

『秋桜の空に』

『トゥルーラブストーリー Summer days and yet...』

『モルダヴァイト』

初めまして。

この度は全姉連会報 Vol.1 を手にとっていただき、ありがとうございます。

この本を手にとられたからには、きっと姉属性持ちか、  
姉萌えに興味のある方なのだと思います。

\*

全姉連は「お姉さん」の魅力を世界に広め、推進していく非政府組織(NGO)です。

長い間、我ら姉属性は団結することが無かった故に、  
隅に追いやられ、不遇な立場に置かれていました。

\*

しかし、終わらない冬はないように、ついに姉の時代は到来しました！

PCゲームの世界では、「姉」「年上」と言えば1人か2人、  
いかにもおまけ的な位置に置かれるのがせいぜいだったところ、  
この姉属性キャラに特化して製作されるゲームが多数発売され、  
大人気を博すものまで現れたのです。

こうした「姉」「年上」に特化したゲーム、いわゆる「姉ゲー」は  
それまでの静けさを打ち消すかのように続々と登場し、  
全姉連他、姉属性 Web サイトでは、この2003年が「姉ゲー元年」と  
呼ばれるまでに至りました。

\*

本書は、これらの姉ゲーを総ざらいし、まとめた本です。

全姉連は、これまで Web サイト上のみの活動をしてきましたが、  
今回、このように会報を出すまでに至りました。

まだまだ拙い面が目立つばかりと思いますが、  
本書が、迷える弟達の姉ゲー選びの助けとなり、  
あるいは姉属性の研究用として、姉好きの諸弟に少しでも貢献できたら  
全姉連の長としてこれ以上の喜びはありません。

今後一層の姉萌えの発展を祈り、  
すべての姉属性所有者に本書を捧げます。

## 目次

■ 『姉、ちゃんとしようよっ!』	4
■ 『お姉ちゃんの3乗～おねえちゃんきゅーぶ』	8
■ 『アネもネ』	12
● 姉コラム 「姉ゲーとは」	15
■ 『ドキドキお姉さん』	16
■ 『ちょこれ～とDays』	18
● 姉コラム 「良い姉ゲーたる条件」	21
■ 『人妻コスプレ喫茶』	22
■ 『チェリーボーイにくびったけ』	24
■ 『Crescendo～永遠だと思っていたあの頃～』	26
● 姉コラム その4 「姉萌えと兄弟姉妹の相関関係」	29
■ 『秋桜の空に』	30
● 姉コラム 「ダダ甘のススメ」	33
■ 『トゥルーラブストーリー Summer Days and yet...』	34
■ 『モルダヴァイト』	38
● 姉ゲー属性表	41
● 姉ゲー元年を振り返って	42
● タイプ別姉ゲーガイド	43

2003 年

# 姉ゲー 総レビュー

『姉、ちゃんとしようよっ!』

『お姉ちゃんの3乗～おねえちゃんきゅーび～』

『アネモネ』 『ドキドキお姉さん』

『ちょこれ～と Days』 『人妻コスプレ喫茶』

『チエリーボーイにくびったけ』

『Crescendo～永遠だと思っていたあの頃～』

『秋桜の空に』

『トゥルーラブストーリー Summer days and yet...』

『モルダヴァイト』

- ・以下のレビューは、『モルダヴァイト』を除き、全姉連総裁が実際にプレイして書き上げた感想です。
- ・評価は、「姉ゲー」観点からなされていることに十分ご注意ください。  
いかに一般的な観点からは良いゲームでも、姉萌え度が低いゲームは評価が厳しくなっています。(もちろん逆の場合もあります。)
- ・“ジャンル”は、メーカー公称のジャンル名です。
- ・各レビュー冒頭のあらすじは、メーカーによる紹介文の引用です。
- ・ネタバレは極力しない方向で書いています。
- ・2003年に発売されたゲームを中心にしていますが、姉ゲーとして外せないゲームも独断でいくつか掲載しています。



## 姉、ちゃんとしようよっ!

メーカー	きゃんでいそふと
ジャンル	姉属性オンリーADV
発売日	2003年6月27日

名門・柊家に幼い頃養子として引き取られた主人公・空也(くうや)。姉達に甘やかされてばかりの軟弱ライフを送っていた彼は、性根を鍛え直す為遠くの親戚へ預けられてしまった。

そして約10年後。空也は立派に成長して、再び柊家に戻ってくる。そこに待っていたのは、可愛い弟の帰りを楽しみにしていた、お姉ちゃん達6人。

お姉ちゃん達は帰ってきた初日から、昔同様、空也をベタベタと甘やかしてきたりアゴでこき使ったりと好き放題。しかもその夜、空也は憧れていた要芽に寝こみを襲われ、散々にいたぶられてしまった。

なんとか要芽を見返そうとする空也は、他のお姉ちゃん達に協力してもらって、己の漢を磨こうと考える。

こうして、再びお姉ちゃんに囲まれた生活がスタートした。

### ■2003年最大の話題作!

姉ゲー元年を信じて止まない2003年、最も盛り上がった姉ゲーといえば、紛れもなく「姉、ちゃんとしようよっ!」(以下、姉しよ)でしょう。

公式サイトは発売後半年も経たずに100万アクセスを突破<sup>1</sup>、10月には公式ファンブックが発売され、小説化も決定、そして続編の開発決定という、今年最も成功した姉ゲーであることは疑いありません。

非公式の姉しよファンサイト<sup>2</sup>は大変活気づき、イラストやショートストーリーなど、二次創作も多く見られます。

姉ゲーを語るなら、絶対に押さえておくべき1本でしょう。

### ■何が受けたのが

初めに断っておくと、姉しよはやや難のあるシナリオがあつたりします。

話が煮え切らないうちに終わってしまつたり、あつさりし過ぎていたり。

Hも短いだとか、繰り返しが多いなどと不満を漏らす声もあります。

私もこれは否定できない所だと思います。

しかし、基礎的な所で突っ込み所が多々みうけられるにも関わらず、ここまでの人気を博したのは、登場人物の6人お姉ちゃんからサブキャラクター、果ては主人公までもが有する非常に個性的なキャラクター性にあるとあっていいでしょう。とにかく全員が萌え萌え<sup>3</sup>に作られているのです。

一人一人の個性が魅力的なのは当然ながら、これだけ際だった個性の持ち主が集まっていながら、それぞれのキャラクターがどのように組み合わせさつてもじっくり馴染んでいるという、なかなか出来ない芸当をこなしたのが姉しよです。

<sup>1</sup> メーカーのトップページのカウンタではなく、姉しよ単独のページのカウンタで100万突破。たった1タイトルのページで短期間にこれだけのカウントを稼ぐのは驚異。

<sup>2</sup> QZさんによる「姉しよ」はそのポータル的サイト。<http://www.q-z.jp/ane/>

<sup>3</sup> 恥ずかしげもなく、敢えて言いたい。萌え萌え!

## ■お姉ちゃん同士の掛け合い

### もまた楽し

姉しよの世界が楽しいのは、主人公と姉との1対1だけで話が進むのではなく、お姉ちゃん同士の会話やイベントが豊富な所にもあります。

そこには、姉間での上下関係<sup>1</sup>などが垣間見え、大家族の楽しさ<sup>2</sup>が味わえる訳です。

姉同士が主人公を取り合ったり、一緒に可愛がってくれたり、時には主人公不在の場面なのに萌えるイベントがあったりと、萌え要素に事欠きません。キャラ萌えのゲームとしても、今年一番の作でしょう。

## ■キャラクター

【注・（ ）内は主人公からの呼び方】

### ・柊 雛乃（姉さん）

長女だけど、ロリィなキャラ。病弱という設定で、普段は和服。

姉ゲーでありながら、その最たる長女に敢えてロリィなキャラを持つてくる理由が分からなかったのですが、今になってみれば納得。一番幼く見えながら、実は長姉としてしっかり威厳を持っており、他の5人の姉は誰も彼女に頭が上がらないというトランプのジョーカー的設定が面白いんです。

この1点だけで、柊家がどんな一家なのか物言わずとも世界観がひしひしと伝わって来ます。

### ・柊 要芽（お姉様）

クールビューティーなお姉様。しかし、

<sup>1</sup>必ずしも上の姉が下の姉より立場が強いとは限らない所がミソ。

<sup>2</sup> しかも全員姉ですから♪

ゲームの設定上、最も割を食ってしまった<sup>3</sup>可哀想な姉でしょう。

このことは、公式サイト上キャラクター人気投票で発売前の人気はかなり上位だったのに、発売後は6姉中最下位に至ってしまうほど…

後日知る所によれば、最後になってシナリオが削られてしまったので、当初の冷たいイメージが払拭されずに終わったことが原因のようですが。実に勿体ないお姉様でした。姉キャラ的には申し分ないのですが。救いのシナリオは、続編できっと…



要芽お姉様（和良さん画）

### ・柊 瀬芦里（ねえねえ）

脳天気お気楽極楽お騒がせ猫娘。柊家のトラブルメーカー。いつも元気な笑顔がまぶしいです。ハーフで、金髪ポニーのナイスバディと来れば、総裁こと私が飛びつかないわけがありません。（笑）

スタート時からフラグが既に立っていることもあり、好印象を抱かない人は居ない

<sup>3</sup> ファンブックでも製作者自ら語る所。

でしょう。

奔放な性格に見えて、繊細な面もあったりするところがまた良い所。

### ・柊 巴（ともねえ）

常にトップの人気を誇るお姉ちゃん。

背が高く、凛とした女性に見えながら、実は押しに弱くて、お人好しで、誰にでも優しい、けれどもいざとなるときりっとしたカッコイイ姉に切り替わる…全てをひっくり返して、一人の立派な姉として存在するからでしょうか。

シナリオの突飛さでは6姉中一番で、かなりの冒険だったと思うのですが、ともねえらしさは失われないうしろ上手に活かしたシナリオだったので、発売後も人気は落ちることはありませんでした。

でも、あそこまで突き抜けたのなら最後をもう少し詰めて欲しかったですね。やっぱり切れちゃったのでしょうか。続編を待て！か？

### ・柊 高嶺（姉貴）

いちめっ娘です。典型的傲慢高飛車姉貴です。ツインテールです。ツインツイン♪

本当にいたらおそらく最も御免こうむるタイプ。こんな姉が実際にいたら、姉萌えにはならなかったかも知れません<sup>1</sup>。

でもゲームでは別。気持ちよくいちめてくれます。主人公はイカ扱いです。

やっぱりこういうキツイ姉貴が一人くらいいないとね。

こんなに弟に対しては強気の姉でありながら、他の姉からは弱い（ともねえを除く）ところが微笑ましかったりします。

ここで問題。キツイ性格で、ツンツンして、いつも痛い思いをさせられてばかりのキャラのお楽しみといえは？

正解がちゃんとシナリオの最後に用意されていますので、その目で確かめて下さい。

### ・柊 海（お姉ちゃん）

コンセプトは甘やかし。「秋桜の空に」的に言えばダダ甘姉ちゃん<sup>2</sup>。

高嶺のいじめっふりと対照的で、ひたすら甘やかし。すりすりすりすりすりすり…

あと、忘れちゃいけないのは、眼鏡ということでしょうか。

個人的には、「秋桜」や「おねきゅー」を体験する前に姉しよをしてしまったので、まだダダ甘に目覚める前の出会いでした。

もしダダ甘に目覚めた後だったら、海姉ちゃんの評価はどっと上がったかも知れません。

### ・秋山 <sup>いるか</sup>衣瑠香

要芽お姉様の事務所で全ての雑務をこなす頑張り屋のお姉さん。

いつも明るく笑顔のお姉さん。ちょっとドジな所は立派なチャームポイント。

事務所のボスであるところの要芽お姉様の忠実なしもべ…ではなく、可愛いペット。

空也に対しても、「わたしのことはいるかちゃんと呼んでくださいねー」と気さくなお姉さんとして接してくれます。

実は攻略できない一人なので、いるかちゃんファンに大いに嘆き悲しまれた。その甲斐あってか、続編ではシナリオが用意される予感…

### ・月白 <sup>とうこ</sup>透子

年上フェロモンを振りまく美人女教師…姉しよでは学校のシーンが出てこないの、授業を受けることはありませんが。

年上ならではの色香でもって迫ってきて

<sup>1</sup> いや、それでも姉が欲しいッ！

<sup>2</sup> 「秋桜の空に」を意識しているのは、ゲーム中のあるセリフから明らか。

くれます。どこかミステリアスな雰囲気も魅力的。

巴姉シナリオで大きく関係してくるキャラクターなのですが、他でももっと活躍させて欲しかったですね。

## ■とにかくやっつけ!

本書を手にとってお読みになっている位の方なら、姉ゲーには程度の差こそあれ、興味があるはず。もし「姉しよ」をまだ体験していないなら、何を置いてもやっておくべきです。

活き活きと動きまわるお姉ちゃん達に囲まれて、休む暇もなく巻き込まれる姉イベントの数々。

細かい不満はあるものの、それを吹き飛ばすおもしろさ。多人数姉ゲーの基本<sup>1</sup>として今後も語られていくことになるでしょう。

## ■広がる姉しよワールド

姉しよ発売後、姉属性はもちろんのこと、非姉属性にも柊家のお姉ちゃんズ+事務所の可愛いお姉さんや妖艶な先生に魅せられて、口コミで広がった人気は、遂に続編の発売が決定されるまでに至りました!<sup>2</sup>

発売予定は2004年春。これを書いている2003年末では、続編の情報が公式サイト上で小出しになされています。

後述の公式ファンブックによれば、主人公・空也が沖縄に修行していた頃に世話になっていた犬神家の家族であり、育ての姉

でもある帆波(ほなみ)と歩笑(ぼえむ)の2人は少なくとも新キャラとして登場のようです。

この新お姉ちゃん達が空也にまわりつくので、柊家のお姉ちゃん達は可愛い弟を取られまいとあの手この手で…と書かれています。一癖も二癖もある個性の持ち主ばかりですから、これまたかなりのドタバタが予想されます。弟をめぐるお姉ちゃん同士が争うなんてイベントが繰り返られるのかと思うと、もう楽しみで仕方ありません! スタッフは全員続投で、今作における不満な点は解消の方向で努力されるのでありますから、安心して待てます。

## ■ファンブックも読んどけ!

MC プレスから発行された「姉、ちゃんとしようよっ! 公式ファンブック~愛と罵倒の日々~」<sup>3</sup>は、姉しよが気に入ったなら買いの一冊。ただCGを並べ倒しただけのビジュアルブックではなく、スタッフの意気込み・キャラクターに込められた思い・裏話、書き下ろしショートストーリー<sup>4</sup>など、非常に読み応えがあります。実際に製作に携わったスタッフ自身の手によるコメントが多く、ゲーム中の失敗点についてまで率直に述べられており、各シナリオ・キャラクターの誕生秘話など、なるほどと思わせる発見ばかり。

また、姉しよは小説化されることが決定しています。2004年の春までに、パラダイムノベルズ<sup>5</sup>より、上下巻<sup>6</sup>で発売予定です。

姉しよ公式サイト<sup>7</sup>も要チェック!

<sup>3</sup> ISBN 4-901972-05-7

<sup>4</sup> 3編収録。秀逸。ここでも、姉しよキャラクターの個性の設定が活かされて光っています。

<sup>5</sup> <http://www.parabook.co.jp/>

<sup>6</sup> 上巻:パラダイムノベルズ205 下巻:パラダイムノベルズ213

<sup>7</sup> <http://www.interheart.co.jp/>以下。

<sup>1</sup> 妹ゲーにおけるシスプリ的地位。

<sup>2</sup> 続編発売のアナウンスはもう時間の問題と誰もが思い、待ちこがれました。2003年10月に発表されたので、発売後4か月で決定されたことになります。





# お姉ちゃんの3乗 きゅーぶ

メーカー	Marron
ジャンル	甘やかされ系ADV
発売日	2003年7月25日

主人公有坂未空（ありさかみく）は女の子っぽい名前だけど、れっきとした男子大学生。

春崎七夏（しゅんざきななつ）は未空の二つ上の従姉。

二人は姉弟同様に育ち、今も一つ屋根の下に住み、同じ大学に通っている。

七夏の未空に対する過保護を除けば、極々普通の学生生活を送っていた。

が。

ある日有坂家に謎の時空湾曲が発生。それに巻き込まれた七夏は姿も性格もあまつさえ名前までも違う三人に分裂してしまう。しかしながら、彼女たちは確かに「未空のおねえちゃん」なのだ……。更には時空湾曲を調査する為異世界よりやってきた妖精まで加わり、事態は一層の混迷の渦の中に。

かくして、未空とお姉ちゃん達（当社比三倍增）の不思議な同居生活が始まるのだった。

果たして、3人のお姉ちゃんは元の七夏に戻れるのか。

分裂したお姉ちゃんたちのそれぞれの思いの間に揺れる主人公の心は……？

通常人の思考であれば、複数のお姉ちゃんをゲームに登場させようとしたら、甘いお姉ちゃんもいれば、きつい性格のお姉ちゃんまで取り揃えそうなところ、希代のお姉ちゃんライター・竹井氏はさすがが違う、姉全員が皆ダダ甘な所から出発しているのです。しかも、甘やかし方も尋常でなく、

- ・背中だってお姉ちゃんの身体ですりすりして流してあげるのにつ！？
- ・ど、どうしてもって言うなら、添い寝する時、寝たふりしてあげるから……
- ・お姉ちゃん、みくちゃんのためなら嘔まなくてもすむように口移しでご飯食べさせてあげるのよ？

…のように<sup>2</sup>、果てしなく甘いのです。膝枕や胸の谷間のばふばふ位じゃ満足できない弟になってしまうのですよ！そういう意味じゃ危険な一本。姉萌え初心者には毒が強すぎます。

## ■究極の甘やかされゲー登場！

ダダ甘お姉ちゃん<sup>1</sup>の魅力を世に広めたMarronの竹井10日氏が、ダダ甘成分だけを取り出して、ひたすらお姉ちゃんに甘やかされるゲームを作ったらどうなるかの限界に挑戦したとも言える“甘やかされ系ADV”が、この「お姉ちゃんの3乗」通称おねきゅーです。

## ■爆笑必至のギャグの応酬

忘れてはならないのは、おねきゅーの笑いの要素。18禁ゲームの笑いは、ハズして寒い思いをさせられることが往々にしてあるんですが、おねきゅーにその心配は無用。スカッと突き抜けたギャグセンス<sup>3</sup>で、全編笑いの渦になること間違いなし。

私の知人は、「プレイヤーがボケることを

<sup>1</sup> 「秋桜の空に」のすずねえのこと。本書のレビュー参照。

<sup>2</sup> 例は比較的小となしめの部類。

<sup>3</sup> より具体的には、上方漫才のノリ。

許される選択肢の用意がすごい」と絶賛していました。そう、ゲーム中に現れる選択肢の多くは、主人公のボケた言動をするかの選択肢であり、それにどうお姉ちゃんや周りのキャラが突っ込むかボケ返すかの反応を楽しむものなのです。しかも、どれを選択しても、全てしっかりオチがついているもんだから、セーブ&ロード<sup>1</sup>で全部の選択肢を読まない気が済まないという仕様。

- ・手伝わざるを得ない
- ・手伝わざるを得ない

こんなおバカな選択肢<sup>2</sup>も頻出。

竹井氏が今後姉ゲーではない作品を書き上げたとしても、絶対についていきます。

## ■ダダ甘ばかりでもなくて

おねきゅーはひたすら甘やかされて、馬鹿騒ぎで終わるゲームじゃありません。

シナリオの最後にはほろっとさせられる、姉弟愛に溢れた展開も用意されていて、ハートフルコメディなゲームでもあるのです。

ネタバレのため、ここでは詳述できませんけれども…

## ■基本面では…うーん

エロゲーは絵が美麗でなくちゃ！とか、Hは濃厚でなきゃ！と仰る御仁には少々我慢して頂きたいのが正直な所。おねきゅーは第一にテキスト命なんです。私の場合、お姉ちゃんとのいちゃつきは、かなりの部分を妄想が占めるので問題ナッシンなので

すが、Hなど無くても、エロスを超越する姉萌えは体験できるのですよ！真の姉萌え者ならわかってもらえる…ハズ。

## ■キャラクター

### 春崎 <sup>ななつ</sup>七夏（ななねえ）

分裂前のお姉ちゃん。従姉だが、小さい頃から二人暮らししている。

ななねえに限らないが、基本的にダダ甘。弟の面倒は一から十まで自分がみてあげなきゃと思っている。弟のしつけや、言い寄る女の子には厳しいチェックが入る<sup>3</sup>。お姉ちゃんズの中では最もお小言の多い小姑になりそうなタイプ。分裂後の3人のお姉ちゃんが潜在的に集合しているだけに、心身の様々な面でバランスの取れているお姉ちゃんですね。

弟を溺愛するばかりに、異常な甘やかし方さえしてしまうお姉ちゃんでもあって、

- ・自分が居ないと、弟は頭を洗うことも、歯を磨くこともできないと思っている。
- ・弟へ送られるラブレターは、全て姉によって遮断される。
- ・弟が喜ぶと思って、ななねえグッズ（ポスター、クッションなど）を与えている。

これほどまでに甘やかして、弟のことが好きで好きでたまらないのに、恋愛感情で片付けず、姉弟愛で最後まで貫かれるのが姉萌えにとって嬉しいところ。お姉ちゃんならではの愛がいとおいしいまでに感じられるのですよ。

### 春崎 <sup>こかも</sup>小鴨（かもねえ）

分裂した3人のお姉ちゃんのうちの1人。口癖は「～～カモ！」

<sup>1</sup> クイックセーブがないのが非常に痛い。

<sup>2</sup> どちらを選んでも進行に影響なし。

<sup>3</sup> 本当は姉離れをされてしまうのが寂しいから。

容姿はベビーフェイス。間違っても子ども扱いしたり、姉とも思わないような言動をすることは、弟として許されません。似非姉萌えライターなら、その容姿をすぐネタにしそうな所ですが、本作の主人公はよくできた弟なので、きちんと姉と弟の分別をわきまえています。かもねえの方も、無理に姉ぶっていないところが良いのです。かもねえは素で十分立派な姉なのでから。

タイプとしては、世話焼きで、弟と一緒にいることが何よりの幸せなお姉ちゃん。終わってみれば、かもねえが一番常識人のお姉ちゃんではないかと<sup>1</sup>。

かもねえの真のお姉ちゃんぶりは終盤以降に思いっきり発揮されるので、ネタバレにも関わることでもあり、省略。パッケージイラストや公式ページでの見かけだけでお姉さん度は測れませんよ！

### 春崎 <sup>りっか</sup>立夏（なつねえ）

分裂した3人のお姉ちゃんの1人。

容姿的には同い年ぐらいの感じ。お腹のあたりの膨らみは、腹巻きではありません<sup>2</sup>。

3人の中ではただ1人、甘やかすよりも厳しくしつけて、ボケにはしっかり突っ込む役。ツンツンした雰囲気、最初は甘やかしてくれるような要素はほとんど無し。

まあ、最初は、ね。最初は…

ストーリーが進むにつれて、恐るべき本性が明らかになります。本作中、1、2を争うと思われる凶悪な萌えイベントが待ちかまえています。なつねえシナリオは覚悟してプレイしましょう。

ツンツンしている所ばかりが目立つお姉ちゃんですが、なんだかんだで甘いお姉ちゃんなのは共通。なつねえなりのダダ甘ぶ

りを感じ取って下さい。

もし、これからおねきゅーをプレイしてみようという方がいたら、なつねえシナリオは3人のお姉ちゃんのうち、最後にしておくことを推奨します。

### 春崎 いりあ（りあねえ）

分裂した3人のお姉ちゃんの1人。

最も大人びていて、色っぽさの面ではお姉ちゃんズ中随一。口癖は「～よネ～」と「ぴにやあああ」<sup>3</sup>。性格は、お姉ちゃん達の中でもスローペースでおっとりした感じ。但し、しっかり者のお姉さんなので、天然系とは違うでしょう。

態度でべったり甘やかしたり、甘えてきたりするタイプで、そしてやきもち焼き。

これだけの色香を身にまといながら、男性恐怖症の気があり<sup>4</sup>、恥ずかしがり屋だったりします。

### 鎌倉 夢子（ドリ子）

幼馴染みのお姉さん。もともと、お姉さんらしく振る舞うことはほとんどないので、同級生の感覚に近い。同じ大学に通っているので、先輩ではあるが、先輩らしいところは後述のれもん先輩に譲られる。

大学ではたいてい一緒にいるため、主人公とお姉ちゃん3人のドタバタに巻き込まれ、泣きを見る役回り。泣くなドリ子、頑張れドリ子！

ドリ子単独では、あまり萌えイベントはないのが惜しい所。まあ、そもそも萌えキャラとして登場させている訳ではないので、仕方ない。でも、良いキャラですよ。ドリ子が居なかったら、かなり寂しいゲームになっていたはず。その意味で、名脇役とい

<sup>3</sup> 泣き声。

<sup>4</sup> しかし、ゲーム中に出てくる男性キャラはかなり少ない。そう考えると、かなりハーレムなゲームだな、おねきゅーは…

<sup>1</sup> それでも常人離れた甘姉。

<sup>2</sup> 服装にはちゃんと意味がある。

えるんじゃないでしょうか。ドリ子が良い感じのいじられ役に変身するのは、次に紹介する“???”が登場してからです。

### ???

オープニングムービーにもちゃんと登場するのに、しつこく???”とされているので、一応は隠しキャラ。誰のシナリオから始めても早いうちから確実に登場します。

いや、彼女なら、アタシが隠しキャラなんてどういうこと?と因縁付けられるかも。

行動も言動も全てが奔放で、思いつきで動いているような人間。その傍若無人さで、常にドタバタが絶えません。自由気ままさは惚れ惚れするほど。このゲームのテンションの高さは、半分くらい彼女のお陰と言っていいかも知れません。

主人公よりは1日だけ年上。そのことをかさに着ることはないのですが。

あとは、下ネタ女王。頑張っけて付けていきましょう。(笑)

### 妖精のデビルさん(本名:デビル=デモニラ=デワーリル。通称はデビ子、デモりん、デビットなど)

長い名前説明だ…

お姉ちゃんが分裂した原因の追究と解決のために現れた、手乗りサイズの妖精さん。本人は妖精と言い張るが、見かけは悪魔チックなので、結局デビ子と呼ばれてしまう。

お茶目で純情なところもある妖精さんなのに、主人公やお姉ちゃん達の巻き起こすドタバタに翻弄されてばかり。気が弱かったり、お人好しだったりする所がかわいらしいですね。

単なるマスコットキャラに終わらず、シナリオの進行を助ける役なので、割と出づっぱりだったりします。

年齢 10 万 12 歳なので、最年長ながらも

お姉さんと呼ぶのは少し抵抗が…<sup>1</sup>

しっかり最後までクリアすれば、デビ子ちゃんの存在意義も自ずと分かってきます。

### 奈乃菜レモン

所属するサークルの部長さん。ハーフ…だったかな?

主人公のことは、後輩として可愛がってくれるが、いつも温厚に見える故、時折ちらっと見せるサディズム的な本性が恐くて、またそこがミステリアスで魅力的。

出番が少なめなのが惜しい。少なめなのに、存在感はある先輩。

### ■総裁お勧めの本!

ダダ甘で姉萌え全開、たくさんの笑いと、少しの切なさが含まれた良作と信じて疑わないのですが、厳しい評価を与えられていることも多いようです<sup>2</sup>。

同社の前作「秋桜の空に」が学園物として大人気を得ており、今作が極度の姉ゲーであることをよく知らずにプレイした結果もあるんじゃないかと勝手に推測します。

おねきゅーは、強めの姉属性を持ち合わせないと、正直言って辛いゲームです。ギャグが詰まっただけで、取って付けたシナリオのゲームと切り捨てられてしまいます。

しかし!姉弟としての“お姉ちゃん”が大好きな弟であれば、おねきゅーに登場する個性的なお姉ちゃん達の魅力、シナリオに込められた溢れる姉弟愛に、きっと心打たれるはず。

姉好きでたまらない弟を自認するなら、絶対におねきゅーを体験してみてください!

<sup>1</sup> しかし、やっぱり姉気質な所も兼ね備える。

<sup>2</sup> 新品・中古価格とも、かなり安く…。



## アネモネ

メーカー	PINE
ジャンル	姉萌え1000%ADV
発売日	2003年5月2日

神宮寺弘士(じんぐうじ・ひろし)は学生である。姉が五人もいることと、家が大きな神社であることのふたつを除けば、ごくごく平凡な学生のはずであった

——そう、あの春の日までは！

弘士は下校路の途中にて壮絶なものを目撃する。それは、銀河の平和を守る正義の宇宙人の、傷つき息絶えた無惨な死体であった。《この町に、地球侵略を企む悪の宇宙人が降り立ってしまった…私はもう駄目だ、だからきみに託そう、悪の宇宙人を見つけだし、地球から追い払うんだっ！……ガクリ》

一方的に地球の平和を託されてしまった弘士は、仕方なしに悪の宇宙人探しを始めるのだが、何と、正義の宇宙人から渡された唯一の宇宙道具宇宙人スキャナー』は、弘士の家に目標があると反応するのであった。

まさかそんなと訝しがる弘士は、ひとつの異常に気が付く。姉が——五人のはずの姉が。違う。いままでと違う。五人ではないのだ。六人——姉が、六人いる!!!!しかも、どの姉にも、見覚えがあるのだ！

偽物は、愛する姉さんに化けた悪の宇宙人は、一体どの姉さん！？

### ■多人数姉ゲーの先駆け！

たとえ生粋の姉派であっても、あのシスタープリンセスはご存じであろう。12人の妹という荒唐無稽な設定には、属性問わず衝撃的なゲームであった。

姉属性の一人として呆れる反面、「ボクもいっぱいお姉ちゃんが欲しいよう！」と密かに思ったものである。

<sup>1</sup> しかし、限度はある。

その願いを叶えてくれるかの如く降り立ったのが「アネモネ」である。<sup>2</sup>

姉は6人。これくらいが丁度良い。しかも“姉に萌えろ！”のキャッチコピー。

待ちこがれた姉ゲーの先駆者登場だった。

### ■姉萌え1000%…か？

しかし、残念ながら姉萌え評価は低め。30%ぐらいでしょうか。多人数姉ゲーの良さが出ていないゲームでした。

まず、キャラの個性が弱いこと。設定は悪くないのに、それが作中で積極的に活かされていないんです。例えば四女の四乃。体力先行のがさつなタイプなら、いつも問答無用の理不尽な弟扱いをしてくれればいいのに、そういう場面が出るのは珍しい方。

次に、姉に囲まれた大家族でありながら、姉複数対弟でわいわいするようなシーンに乏しく、お姉ちゃんが6人もいるという楽しさが味わえません。ゲーム中での夕食後、本来ならここでお姉ちゃん達との団らんでも楽しめそうな所、お姉ちゃん達は皆自室へ帰ってしまいます。実際にこんな家庭があったら寂しいですよ…。

### ■ストーリーに難あいが

冒頭のストーリー紹介にもある通り、こ

<sup>2</sup> 姉が複数登場するゲームはあったが、多人数姉を謳い文句にしたゲームはこれが初ではないだろうか。

のゲームの基本的な流れは「姉になりすました宇宙人を探せ」というものなんです、ゲーム全編がこの設定に引きずられっぱなしで、姉萌え要素をおろそかにしてしまっている感があります。主人公の関心や行動が、常にこの犯人捜しばかりなのです。

およそギャルゲーにおいては、女の子と  
いかに仲良くして、それにより萌えることが主目的であって、ゲーム全体の世界観や設定は枠に過ぎません。

この点を取り違えてしまった本作は、非常に痛いゲームになってしまったといえるのではないのでしょうか。

後半での SF 設定も、本格的に作り込んでいる割には少々退屈気味。萌えゲーで通してくれて問題ないと思うんだけどなあ。

## ■グラフィックやテキストも…

イベント CG はまあまあなんです、立ち絵が危うげで、パターンも少なく物足りない…

それでもグラフィックは良しとしても、テキストはもう少し頑張っただけ良かった。独特の文末表現が続いたり、内向的な文面だったり。これが萌え分の少なさの原因だったかなと思うほど。もっとあか抜けた文章で飛ばしてくれた方が、この姉ゲーには向いています。6人の姉に囲まれる楽しさを表現するためには。

## ■でも最後まで頑張りましょう

不満ばかり、たらたら書いてしまいましたが、各お姉ちゃんを最後まで頑張ってクリアしましょう。ハーレムルートが待っています。

このハーレムルート、それまでのあか抜

けなさが嘘のように無くなっていて、これぞ姉ゲーの楽しさともいえるべき展開になっています。

このノリが全編に渡って実現されていたら、「姉しよ」に肩を並べる名姉ゲーになっていたんじゃないかと思わせられます。実に勿体ない。

## ■キャラクター

### 長女・喜美（ひとみ）

おっとり天然巫女さん。行動や言葉遣いすべての面でマイペース。

長女としての威厳はあるが、その天然さ故に、厳しさは表に出ない。

母親のように優しく接してくれたり、姉らしくなだめてくれるところは有り。優しいような長姉だからこそ、顔は笑っているけど実は怒っている…みたいな表現もあったら最高だったか。

シナリオ後半の一悶着以降、最も姉っぽくなるので最後まで待て。

### 次女・双葉（ふたば）

主人公の通う学園の物理教師をしている姉。クールかつまじめな堅い先生。眼鏡。

2番目の姉は表向ききつめのボス姉、1番目の姉はおっとり系ながら影のボス姉という設定が姉ゲーの基本パターン<sup>1</sup>の一つだとすれば、アネもネもそれにあたる。

もちろん姉の中では叱り役ですが、叱り方に愛想がないような、他人行儀なような。愛情の裏返しの責め口調や罵倒なら甘んじて受ける所、「あんたには呆れるわ…」的なので、今一步萌えられず。

厳しい姉は、一線越えた後の甘さがお楽しみと言いたい所、これもそんなには…

<sup>1</sup> 「姉しよ」の雛乃-要芽ラインとか。姉ゲーではないが、「痕」の千鶴-梓ラインも近いものを感じる。

### 三女・三樹（みつき）

控えめで物静かなお姉さん。

訳あって引っ込み思案で内気なため、普段は家で家事手伝い。

表面的に感情の起伏の乏しいキャラは印象が薄くなりがちですが、みつき姉はほんわかした雰囲気印象的で良かった。口には出さず、気付かない所で実は弟の世話を焼いてくれている優しいお姉さんでした。こんなお姉さんなら、守ってあげたくもありません。

6姉の中ではシナリオの展開がもっともよくできていて、楽しめました。

### 四女・四乃（しの）

体育会系の姉。

すぐに手が出るタイプの姉にもかかわらず、弟をからかったりいじめたりするようなことはナシ。

でも、ここはそうさせるべきでしょう。そうでないと、しの姉の存在感が出てこないんですよ。

エッチなことを見聞きすると「きゅう」となって倒れてしまうのが持ちネタ。がさつで腕力があってボーイッシュな雰囲気もあるのに、エッチなことにはボツと赤くなる姉なんて、萌えイベントに事欠かない設定だと思うんだが…

普段気が強い分、ちらっと見せる女の子っぽい部分は魅力ですよ。

### 五女・五百菜（いおな）

主人公と歳も近い、ちっちゃめなお姉ちゃん。故に、頑張ってお姉ちゃん風を吹かせようとしています。

見た目が姉に見えない姉ほど、背伸びして姉らしく振る舞わせるのは安直<sup>1</sup>だと思います。

<sup>1</sup> 真の姉ならば、無理して姉らしくしようとはしない、の信念より。

えて好きではないのですが、いおな姉は健康な所も見え隠れするので、これもまた良しかな。「ひろちゃん（主人公）の事は、お姉ちゃん、すぐわかつちゃうんだから」みたいな言い方は好感度高し。

### 六女・Pちゃん

謎のロボ姉。ただし、他の家族はメカであることを気にもしていない様子で、主人公だけがロボ姉であることに疑問を持っている。

姉っぽい所は無いわけではないが、やはりロボっ娘としての属性先行。でも、「私はロボだから、生身の人間とは…」のシナリオは無いです。むしろ猫っぽさで攻めてきます。猫耳生えてるし。猫型ロボット？

明るく無邪気な猫っぽさで、ムードメーカー。色々な意味で、このゲームの鍵となるキャラクター。

弟に一途で献身的な面も見逃せない所ですよ。

## ■惜しい面ばかり残る姉ゲー

せっかくの“姉萌え 1000%”の心意気も、今一步及ばずでした。

前述のように、萌え方面で頑張れば「姉しよ」並みの人気姉ゲーになったと思うだけに、本当に惜しい一本。

多人数姉ゲーを企画し、他社に先駆けて実現してくれた<sup>2</sup>ことは素直に嬉しく思います。

これに懲りず<sup>3</sup>、また姉ゲーを作ってもらえませんか？

今度こそ 1000%モンの姉ゲーを！

<sup>2</sup> もし「姉しよ」より後に出ていたら、便乗作と揶揄されたかも。

<sup>3</sup> 中古では 1000 円を切っているらしい。

## ～姉ゲーの定義を考える～

特に気にすることもなく姉ゲー姉ゲー言っていますが、姉ゲーとは何か、私なりに定義を与えてみると、次の2つのタイプに分かれます。

a)ゲームの主題が姉属性に特化していることを製作者が明確に意識しており、それを特に強調しているゲーム。

b)ゲームの主題に姉属性は含まれていないものの、作中に登場する年上役・姉役が非常に優れており、実質的にその役が主役又は主題とも言うべき仕上がりになっているゲーム。

具体例を挙げれば、aは「姉、ちゃんとしようよっ!」や「ドキドキお姉さん」などであり、bは「Crescendo～永遠だと思っていたあの頃～」 「秋桜の空に」などになります。

「姉、ちゃんとしようよっ!」は、“姉属性オンリーADV”をメーカー自ら謳い、公式サイトにも“姉萌え”の項があるほど。

「ドキドキお姉さん」も、そのメーカー公称ジャンルは“お姉さんAVG”です。

「Crescendo」は、形式的には、あやめ姉と香織先生の年上2人が二番手的に紹介されているものの、特にあやめ姉に至っては強烈に姉属性に訴えかけるシナリオとして「姉ゲーの金字塔」と絶賛されました。

「秋桜の空に」は、元祖ダダ甘の涼香姉がそもそもヒロイン的位置にあるのですが、全体的には同級生・後輩有りの学園物なのでa的な姉ゲーではないでしょう。

しかし、「秋桜」の仕掛け人・竹井10氏は、後の「お姉ちゃんの3乗」にて強烈

な姉萌えライターであることが発覚するので、実は「秋桜」からaタイプを目指した姉ゲーだったのかも知れません。

この両タイプの姉ゲーは、どちらがより優れているかという問題ではありません。

ただ、aタイプの姉ゲーは発売前の告知やパッケージなどから容易に判別できるものの、bタイプはそれが困難であるという違いがあります。

姉ゲー探しで見つけやすいのは当然aな訳ですが、「掴まされる」危険が多いのもaです。

その点bタイプは、姉属性の同志の実際のプレイに基づく評価や口コミにより判断するので、信憑性が高いと言えるでしょう。

従って、bタイプの姉ゲーは見かけや先入観にとらわれず思い切って手を出してみると意外な名作姉ゲーに出会えることと思います。

反面、aタイプの姉ゲーは要注意。

「お姉さん」を、単に女性に対する呼称・愛称に使っているだけのタイトルが多いからです。

「隣のお姉さん」(にくきゅう)や「そこダメ!お姉さん」(びーにゃん)などは、このタイプでした。

姉ゲーが徐々に増えつつある昨今、姉人気に便乗したゲームにだまされることなく、一つでも多くの良質の姉ゲーを手にとられますよう…





## ドキドキお姉さん

メーカー	アトリエかぐや
ジャンル	お姉さん AVG
発売日	2003年7月25日

ひとり暮らしを満喫している主人公・川奈智博。

そこに転がり込んできたのが、兄嫁のみちると、義姉の瞳！さわどい格好でぶらぶら歩き回り、風呂ではシャワーの音を響かせ、無防備に目の前で寝こけるなどなど……。

その上なぜか保健体育の先生、葉月も一緒に住み込み、フェロモンふりまきまくり。

しかも、エッチな管理人のお姉さんも加わって、もう世界はお姉さんのパラダイス！！

思春期の純情ボーイには、恥ずかしくもありがたい我慢必至のドキドキでとってもエッチな毎日が始まった！！

### ■どストレートな姉ゲー

「ジャンル：お姉さん AVG」として、姉属性一直線を謳ったゲームとして、事前の期待も大きい1本<sup>1</sup>でした。

何かにつけて、妹が売りにされてきたこの業界で、こうして真っ向から姉が対抗勢力になってきたという意味で、姉ゲー元年を象徴するゲームといえるでしょう。

### ■安心感のある作り

本書でも紹介している「人妻コスプレ喫茶」に続くアトリエかぐやのゲーム。グラフィック、サウンド、ボイス、システム等の基本は十分な出来栄。

<sup>1</sup> 2003年7月25日の姉ゲーXデーを支えた1本。

量的にも価格に見合うレベルで、攻略可能キャラクターが4人でも、物足りなく感じることは無いでしょう。エッチのクオリティは良く、問題なしです。

### ■妹汁ならぬ姉汁？

イラストを見て気付く人は気付くでしょうが、同社の妹ゲー「妹汁」の原画を務めた choco chip さんが今作の原画も担当されています。

そのイメージとも相まって、ややもするとお姉さんに感じられない、幼めのキャラクターデザインだったりします。

瞳姉さんや玲子さんは、それなりに姉を感じることもできるのですが、残りの2人は…(苦笑)

「姉は外見じゃないぜ！」な諸弟であれば、ここは乗り切れるでしょう。

### ■姉ゲー度は？

甘やかされたり、誘惑されたりと、姉ゲーならではのイベントは豊富に用意されていて、姉属性をくすぐられることは間違いなし。ツボはそつなく押さえられています。

ただ、強烈な一撃や深く引き込まれるような姉萌えシナリオまでは体験できませんでした。

まあ、姉属性がかなり強まって、半ば姉味覚が麻痺したような総裁の感想ですから、

まともな姉属性の弟から見たら、ちゃんと姉ゲーとして成立していると思います。

ということで、合格点はあげられますが、もう一押し欲しい、というのが正直な所。

## ■ キャラクター

### ・川奈 瞳（義姉）

自分もこんなお姉ちゃんが欲しかった！

そんな気持ちでいっぱいにしてくれる、愛情たっぷりのお姉ちゃん。

母性本能度は、今年の姉ゲーの中でも随一。溺愛するでもなく、ただの甘やかしでもなく、程よいさじ加減の優しさ。

アルコールが入るとフェロモン全開でえっちなお姉ちゃんになるギャップも良し。

最後まできちんと姉で通してくれる所も素晴らしい所です。<sup>1</sup>

### ・川奈 みちる（年下だが兄嫁）

主人公の兄嫁にして高校生で、主人公の一つ年下でありながら同級生（主人公が留年したため）というお姉さん。お姉さんか？

なぜそこまでしてややこしい年下を姉ゲーに出しているのかといえば、みちるは生意気罵倒キャラを担当しているからでしょう。口うるさいけど、年下にしてバランスを取ろうとしたのではないかと勝手に推測していますが、姉ゲーにそういう気遣いは一切無用。普通に年上を用意してくれれば良かったのに。

いじめっ子気質が高じて、ダークエンドは鬼畜系に突入します。

### ・水野 葉月（先生）

ぼやぼや〜とした感じの、おっとり天然系お姉さん。学校では保健体育の先生。

この人も訳あって同居生活なので、もちろん個人授業とかその辺も…

とにかく天然ふわふわ系なので（非常識なほどではないものの）、女教師の響きとはほど遠い、お姉ちゃん先生。

姉を振りまくことはあまりないので、こちらから姉要素を感じて行ってあげないといけません。上級者向け？

### ・三浦 玲子（隣に住む管理人）

非常に分かりやすい、誘惑光線出しまくりの管理人さん。

当然のごとくエッチな場面の連続。こういうベタなお姉さんは恥ずかしげもなく私の好きなタイプなんですけど、ただのえろえろ姉さんに終始してしまい、姉萌えの要素を置き忘れてしまったようです。

お色気ばかりでは姉は務まりません。エロ以外で萌えさせる要素が欲しかったんですが、エロゲーである以上仕方ないかも知れませんね。

## ■ 八方美人的姉ゲー

大きな欠点もなく、姉ゲーとしても満足な1本でした。

敢えて言えば、無難すぎる所が不満にもなりうるかと。多少の失敗があっても、後を引くような個性的キャラクターやシナリオがあったら、名姉ゲーにもなりえたんじゃないかな、と思います。

そんなに姉に入れ込んでいないが、姉寄りなタイプと自認する人ならば敷居の低い姉ゲーだと思います。

アトリエかぐやの実力は評価できましたので、今後の姉ゲーに期待します。

<sup>1</sup> でも、TRUE ENDの締めがバッドエンドっぽい。



## ちよこれ～と Days

メーカー	XUSE(ザウス)
ジャンル	誘惑お姉さん ADV
発売日	2003年10月3日

季節は冬。1年生の3学期の半ば。数日後にバレンタインデーを控え、浮き足立つクラスメイト達。

部活にも委員会にも所属せずクラスの女子達ともほとんど話したことがない拓哉には、何の関係もなかった。

だが、「義理チョコ」は2つ確定しているのだった。

隣に住む幼なじみの風花と、居候しているイトコのつばさ。とはいえ風花は、早くに母親を亡くした拓哉にとって姉であり母である女性だし、イトコのつばさは拓哉を男として見ていない。

甘いものが取り立てて好きという訳でもない。女性との交際を激しく望んでいる訳でもない。そんな拓哉にとって、バレンタインは特別な日ではなかった。

——そう……去年までは。

今年のバレンタインを機に拓哉の人生は変わり始める。一人の年上の女性と肉体関係を持つてしまうことから、物語は始まる。拓哉はその関係と自分の将来を真面目に考え始めることになる。そして考えを実行に移す時、傍らにいる女性はだれなのか？

### ■姉ゲーだよお姉ちゃん!

“登場ヒロインは全て年上”とメーカー公称の姉ゲー。こんなコピーが踊る良い時代になったんだよ、お姉ちゃん!

お隣に住む姉同然のお姉さん、居候の従姉、学校の先輩、先生と年上ジャンルを幅広く取りそろえたマルチ姉ゲー<sup>1</sup>として、事前の期待は大でした。

### ■シナリオのパンチ不足…

<sup>1</sup> 多人数姉ゲーが全員親族関係上の姉であるのと異なる。

しかしこれがやってみると、もう一步煮え切らないもどかしい姉萌え路線。

ちゃんと姉ゲーとしての特徴を出そうとしているのは分かるし、その努力は買うのですが、どうにも外的外れで姉好きのツボを押さえられていない感じ。

風花お姉ちゃんはなかなか姉らしく振る舞ってくれたりしてこそばゆいのですが、つばさはボーイッシュさが先行し、理緒先生も痴女っぽい面が強く、先輩二人は同級生との差別化が図れず…

一般的なギャルゲーなら、そこそこ行ける展開やイベントなのでしょうが、姉ゲーならではのと言えるようなベタな演出ではないので、姉ゲーとしてはどうかとの評価に落ち着いてしまいました。

### ■主人公に致命的な欠点

本書のコラムでも書いた通り、良い姉ゲーは、姉は最後まで姉で、弟は最後まで弟で、が鉄則。

しかし、本作の主人公は、その上下関係を破って、ただの「男と女」の関係になりたい願望のある一人でした。

今までさんざん世話になってきたお姉ちゃんのことを、君は何と心得ておるのか! 姉をただの女性として見ようなどとは、弟としての身の程知らずというものです。

### ■キャラクター

## 岬 風花

隣に住む世話好きお姉ちゃん。母は死別、父は仕事で別住まいの主人公にとって、保護者代わり。

弟同然の主人公のため、毎朝起こしに来てくれて、いつも食事を作ってくれたりする優しいお姉ちゃん。

すぐに照れる、すねる、慌てる等々、少し天然っぽいところも可愛らしいところ。

弟の喜びや幸せが、自分の喜びや幸せであると感じている姉なので、「たーくん（主人公）がきちんとした女の子と、清く正しくお付き合いしないと…」と口にする点は、**Marron** の秋桜やおねきゅーを意識した流れでは？と思わずにはいられません。

しかし、風花お姉ちゃんは前述の弟の願望に答えてしまうので、最後まで姉を貫き通してくれないところが残念。

反面、他の姉シナリオでは、主人公の恋路を応援したり見守ったりしてくれるので、こちらの方がずっと姉萌えできます。

従って、風花お姉ちゃんの見所は、むしろ他のキャラを攻略しているときにこそあると言えるでしょう。風花シナリオだけ見て姉萌えが足りないと思うのは、木を見て森を見ないが如し。

## 新庄 つばさ

シェフの仕事のために転がり込んできた居候の従姉。家ではビールを呑みながら、主人公をからかって酒の肴代わりする<sup>1</sup>、どちらかといえばボーイッシュなタイプ。

いい加減な姉のように見えて、しっかりと大人としての自覚を持ち、主人公を諭したりするところは好印象でした。

が、シナリオの突っ込み弱さは否めず、もう一押しがありませんでした。

---

<sup>1</sup> 個人的に忘れられない姉の一人、Pia キャロ 2 の葵さんともダブって見えて、萌え。

## 猪俣 理緒

学校の担任の先生。ナイスバディ+ぴっちりスーツ+ネクタイと、上から下まで年上属性装備。

気に入った生徒に手を出す癖があり、主人公もその毒牙に…人気のない図書室で、小動物を追いつめたライオンよろしく迫ってくる様は、定番ながらもやはり年上萌えの醍醐味。誘惑されたり命令されたりのエッチ担当。

派手な修羅場はないものの、先生と生徒の垣根をどう越えるかの定番もあり、それなりにまとめられていました。

最後、年上・年下関係があまり見えなくなってしまったので、この点で今一步及びませんでした。

## 阿久沢 美空

1年上の先輩。七海とは双子で、姉。

深窓の令嬢風メガネっ娘。当然言動もおっとり。姉に限ったことではありませんが、リアクションの少ないキャラでその特徴を表現しようとする、ベタなくらいのイベントをいくつも投入すべきだと思うのですが…少ない。物言わず、こくこくとうなずくキャラ好きにも、この先輩は物足りないんじゃないかと思うほどです。

通常の会話も特に先輩っぽさが足りないもので、これなら同級生との変わりがない。

妹の七海との関係で、姉を表現しようとするところが見られるのですが、かなり難しいと思うし、成功もしていない。双子における姉と妹は、単に産まれた時の先後だけなので、そんなに姉と妹の差を意識することはあるんだろうかと疑問に思いました。

同学年に先輩2人押し込むためにわざわざ双子にしたんだろうか…

## 阿久沢 七海

美空と双子で、妹の方。

姉を心底愛していて、姉に近づく者は全てに天誅を下そうと構える武闘派。

性格はかなり素直じゃなく、主人公にも突っかかってばかり。全般において相当疎ましく思えます。姉の理不尽な暴力は慣れています。七海の場合、「姉（美空）に近づいた」という理由で殴りかかってくるので、年上の先輩故の暴力とは質が違うのです。まだ「殴りたかったから殴っただけ。先輩のあたしに文句あるっての？」の方がマシです。

ならばツンデレ系<sup>1</sup>かと思えば、仲良くなってもデレデレしてくれず、違いました。

愛し合う姉と妹と、そこに割って入った主人公。美空とセットで、イレギュラーな三角関係がテーマだったので、姉ゲーにはそもそも向いていないシナリオでした。

「誘惑お姉さん ADV」でわざわざするネタでは無いと思うんですが…

## ■姉萌え寸止めゲー

以上のように、どの部分も良い線に乗っているにもかかわらず、あと一歩が足りない寸止めで不満の残る姉ゲーでした。

これが取りたてて「誘惑お姉さん ADV」 「登場ヒロインは全て年上」としてなければ、まずまずの良作と言って良いのですが、姉ゲーをメーカー自ら称している以上、やはりそこは姉ゲーの良否の観点から評価を厳しくさせてもらいます。

もしかしたら本作は、ライト姉ゲーのユーザー向けだったのかも。そう考えると、濃い姉萌え展開を敢えて避けたとの仮説も成り立ちます。私の周囲では、ディープな

姉派が多いので、確かめようがありませんけど。ライト姉ゲー派と思っている方は、臆せず挑戦してみると、意外に楽しめるかも知れません。

ところで、姉ゲーとしてあとちょっと足りないと感じる所が、ミッドプライス 5000 円を実現するために削減された結果<sup>2</sup>だったならば、それは非常に残念。

そう、このゲームは定価 5000 円で、一般的な 18 禁ゲームに比べて 3～4 割低い価格設定になっています。そのせいで絵や音の質が落ちているとは感じなかったのですが、このブランドは支持したいと思っているんですけどね。

## ■やるからには全キャラも

結局、ちょこれ〜と Days において、最も姉を感じる事ができるのは風花お姉ちゃんであることに間違いありません。

ところが、キャラ別紹介にも書いた通り、風花お姉ちゃんが姉らしくなるのは、風花以外の他のシナリオを攻略している最中なのです。

シナリオごとに風花お姉ちゃんの応援スタイルは変わってきますので、あまり興味の持てないキャラでも、お姉ちゃんのためにと頑張って<sup>3</sup>頑張ってください。

<sup>1</sup> 普段はツンツンして嘸み付くばかりだが、打ち解けて仲良くなった後はデレデレ状態に陥る性格のこと。

<sup>2</sup> シナリオの質を落とすことがコスト減に大きく貢献するとは考えにくいですが…？

<sup>3</sup> 風花お姉ちゃんにしてみれば不遇な話。

## ～姉萌えと兄弟姉妹の相関関係～

「妹ゲー」バブルもようやく落ち着いて来ました。

2003年に姉ゲーがその数を増したのは、あまりに妹に偏った業界に自然に働いた自浄作用なのか、姉でも行けると気付いた姉寄り企画屋さん達の努力の成果なのかは分かりませんが、姉ゲーの潮流が明確になったのが2003年であると言っていいでしょう。

しかし、商売になると分かった時点で、姉ゲーで一儲け…と便乗する輩にも気を付けなければなりません。ろくに姉萌えの精神を理解もせず、年上のスタイルの良い女を出して媚びさせておけばいいんだろ的なゲームに、我々純情な弟一同は心も体の一部もびくりともしません。姉萌えはそんな単純なものではないのです。

ここで、姉ゲーの善し悪しを判断する、総裁なりの一つの基準があります。

それは、「姉が最後まで姉として描かれているか」というものです。

いい加減な似非姉萌えライターがよく使うお決まりの展開として、こんなものがあります。

弟：「いつまでも姉弟じゃ駄目なんだ。僕を一人の男としてみて欲しい。」  
姉：「今まで姉と弟として接してきたけど、これからは男と女として…」

どうしてこれが駄目だか、既に姉属性の方ならお分かりですよ？

コスチュームフェチ…例えば巫女さん大好きな御仁は、巫女装束をまとっている女

子にこそ萌えますよね。

眼鏡っ子属性なら、「私、今日からコンタクトにしたの」なんて展開された日にゃ、その場でブチ切れてメーカーに殴り込みに行っても、消費者の正当な権利保障として罪にはなりません。

同様に、姉は姉として最後まで姉で居てくれないと、“姉ゲー”として成立しないのです。“姉”は、見た目ではない、形而上の属性ですから、この点は絶対に外してはならない条件です。

この条件、姉ゲーの良否を見極める重要なものなのですが、ゲーム終盤の盛り上がる所にまで至らないと分からないという難点があります。

せっかくそこまでは盛り上げておきながら、最後に上述の展開に至ると、もう愕然として冷めてしまいます。どうして最後までお姉ちゃんできてくれないんだよ！と。ゲーム中、プレイヤーの片身である主人公が、弟を辞めたがるかのような言動をしたら要注意！

姉ゲーシナリオライターの竹井10日氏自らが作詞した「お姉ちゃんの3乗」の主題歌『きゅーぶ de お姉ちゃん』の最後の一節はこうなっています。

♪いつまでも  
あなたのお姉ちゃんになりたい



## 人妻コスプレ喫茶

メーカー	アトリエかぐや
ジャンル	人妻誘惑 AVG
発売日	2003年5月30日

主人公、朝比奈智也(あさひなともや)はよく近所の喫茶店に出入りしていた。

ある日その喫茶店のマスターが、事故に遭って入院することになってしまう。その事故の現場に居合わせていた智也は、マスターの娘、のえるに責任を追及されてしまう。長期休暇中ということもあり、智也はマスター代理としてのえると店で働くことになった。だが、マスターの煎れるコーヒー目当てで来ていた客もしいにこなくなり店は廃れる一方だった。

そこで、その喫茶店の常連客で智也とも知り合いの主婦連中4人が店のために手伝えることはないかと名乗りを上げてくる。彼女たちは、見物目当てで来る客もいるほどの美女揃い。こうして人妻たちも店を手伝うことになるのだが、店の奥から現れたのは目のやり場に困るような大胆なウェイトレスのコスチュームに身を包んだ4人の人妻たちだった。なんでも、コスプレで客寄せしようということらしい。

更にのえるの提案により、もっと色々なコスチュームを用意することでさらに客にアピールすることになり、そういったコスチュームの好みなどは男の方がよくわかるからというよくわからない理由から智也は「人妻コスプレ喫茶」の店長代理に任命されてしまう。

こうして、人妻たちとの甘くHな喫茶店経営が始まるのだった……

### ■人妻だって広い意味で姉

18禁ゲームの世界において人妻と名が付けば年上なのがお約束。当然このゲームに登場する人妻は、大学生である主人公より全員年上。姉と人妻はイコールじゃないとの声もありそうですが、全姉連で言う「姉」

は年上の女性に対する一般的な呼び方も含んでいますので、ご了承を。

### ■人妻は一つのジャンル

実は、人妻を主題にしたゲームは、「妻みぐい<sup>1</sup>」しか経験が無く、人妻=姉の延長の認識がありました。

ところが、本作をプレイしてみて、「人妻は単なる年上にとどまらない、立派な一つのジャンルだ」と認識を改めました。

というのも、本作では4人のシナリオそれぞれが、人妻であることを上手に活かしたものだっから。寝取ったり、修羅場に遭遇するような後ろ暗さは比較的少なく<sup>2</sup>、どれもグッドエンドは純愛で締めくくられます。

人妻モノとしては敷居の低いゲームなので、今まで何となく敬遠していた人や、新たなジャンルを開拓してみたい諸弟にも自信を持ってお勧めできるゲームです。人妻=年増のオバサンではありませんよ？

### ■基本面では不満無し

スタイルの良いヒロイン揃いの本作に相応しい肉感的で綺麗なグラフィック<sup>3</sup>。ベテ

<sup>1</sup> アリスソフト。ここでは省略するが、こちらも人妻モノとして秀作。

<sup>2</sup> 別の意味でダークな展開はありますが。

<sup>3</sup> HシーンのCG率も非常に高い。

ラン声優によるこなれたボイス。濃厚でねちっこさを感じる多数のHシーンと、基本面では全く不満ありませんでした。

## ■キャラクター

### 小野瀬 晶帆

今は未亡人なので、元人妻。4人の中では、最も控えめで慎ましやかなお姉さん。他の積極的なお姉さん方からかわれやすいタイプ。困ったりするのも可愛い所。

標準的なシナリオながらも、演出が上手なので最後まで飽きさせません。締めもきれいにまとまります。攻略は最初か最後をお勧め。

### 不破 涼華

姉御肌で、年下の男の子をからかうのが好きなタイプのお姉さん。振り回されたり、リードしてくれるお姉さんが好きな人向け。最後までPiaキャロ2の葵さんの姿とダブりました。一人の子持ち。

期待通り、誘惑されまくり、もてあそばれまくりの楽しいシナリオ。しかし、ふっと見せる憂いの表情と、それに関わる事件は、日頃快活な性格なだけに読み手をつかんで離しません。こういう所が、本作をただの軽い姉ゲーにとどまらせない、評価できる点だと思います。

### 榊 聖亜

大金持ちに良くある天然系。浮世離れたボケで、ゲーム内の笑い担当か。

天然とはいえ、エッチの方面においては積極的で、ほれほれ〜と年下を誘惑するツボはしっかり身につけているので、カマトトぶられる恐れは無し。仮にも人妻であるからには、ねえ？

シナリオは、若干取って付けたような印象があったので、他の3人に比べてもう少し頑張っただけだった。

ただ、声の演技が最も特徴的で、耳について離れません(笑)。その後、CVである白井綾乃さんの声を聞くたびに、この聖亜さんのイメージとかぶってしまって困るほどでした。

### 真下 佳奈絵

メーカー公称の良妻賢母。その通りでした。一人の子持ち。

これって誘惑？それとも自然なスキンシップ？と本心を測りかねる行動に初めは翻弄されます。中盤からは積極的に美味しくされちゃうんですが。

人妻との忍ぶ恋のスリルやドキドキ感を体験させてくれるシナリオ。その意味では本作中で一番、人妻の特徴が出ています。

あと特筆すべきは、シチュエーション重視エッチでしょうか。

それにしても服を着ている時の胸のボリュームが…

## ■隙のない、充実した本

18禁ゲームの熟練クリエイターによる作品の風格を感じさせ、必ずしも現在の主流とは言えない人妻ゲーでありながら、実は間口の広い1本。

年上好きでも、人妻専門ゲームにまで至らなかった私にとっては、記念碑的なゲームでした。日頃はお姉ちゃん子のあなたでも、たまには趣向を変えて若奥様に可愛がってもらってはどうですか？

なお、4人クリア後のおまけシナリオの一つは、ある意味で極めて危険かも知れません。私の知り合いでは、それを目当てで手を出した人がいるくらいですが…気になる人は最後まで頑張ってください！





## チェリーボーイにくびったけ

メーカー	アクトレス
ジャンル	アドベンチャー
発売日	2003年4月11日

恐れていたことがついにやって

来た。

姉たちと離れた学園に進学するはずが、いつの間にか姉たちと同じ学園に入學手続きが！

姉たちに世話を焼かれるのが嫌で、他の学園を志望していたというのに……。

どうせ合格する筈がないと思いつつ受験したところ、皮肉にも会心の一撃で合格してしまう。

他の学園を受け直すのも面倒で、結局は姉たちと同じ学園での生活が始まることに。

まずは平穏な滑り出しを見せた学園生活だったが、おせっかいな姉や賑やかな学友たちに囲まれて、そのまま終わる筈もなく……。

外見がかわいらしいこともあって、女の子にからかわれがちな主人公が義母、義姉や学園の先輩に囲まれて、ドタバタとした日常を過ごす、コメディータッチのアドベンチャーです。

### ■姉ゲーのセッティングは完璧

親の再婚によって姉妹が増えた、という設定はもう王道の域<sup>1</sup>ですが、1人ではなく2人、しかも姉と妹ではなく、姉と姉！タイトル名も思わせぶり。若々しい義母も攻略可能と来れば、年上スキューとして手を出さないわけには！

### ■フタを開けてみれば…

お姉ちゃん2人+義母の女だらけ家庭に

<sup>1</sup> 実姉妹がソフ倫にひっかかる以上、致し方ない。

期待を膨らませスタート。

寝起きの悪い主人公を、活発で陽気な未来姉がたたき起こしに来ます。もう一方の、内向的な愛姉がそれをやんわりと諫めつつ、若くて綺麗な義母の麻衣さんが微笑しながら朝食の用意…と、男女比が全く逆の家庭に生まれた私には朝からユートピア。

と、幸せな気分スタートしながら各キャラのシナリオを始めたのですが、どうもこのゲームは姉萌えを第一に意識したゲームではないんじゃないかと感じ始めます。

一番目にはまず愛姉から攻めていったのですが、未来姉に引け目を感じている内向的な姉という設定は良いものの、弟に対する姉の優位性のようなものがほとんど感じられないのです。

未来姉は、主人公に対して優位に立っていることは確かなんですが、姉というより元気で活発な性格故といった感じで、姉と弟ならではのぶつかり合いに少々欠けてしまったかな、と。

また、各キャラに共通して、唐突にコトが始まるのが特徴。シナリオの浅い段階で、そこはまだキスを求めてくるぐらいでしょ、という場面で、おもむろに主人公のチャックを下ろしてくるのはどうかと(笑)。あとはHの進行も軸にシナリオが展開されていくので、純愛ながらも肉欲系。

そうそう、言い忘れてましたが、タイトルのチェリーボーイは意味をなしてません。どう見ても手慣れているし、逆にヒロインの方がウブで(麻衣さんを除く)、手取り足取り股間取りはありませんでした…

## ■ 18 禁ゲーとしては合格

CG は繊細で綺麗です。絵柄でパケ買いしても良いでしょう。テキストも書き慣れた方が書いている印象。H シーンは質・量ともに十分でした。コメディタッチでエロも豊富なゲームを望むなら問題ありません。

## ■ キャラクター

### ・羽田 未来<sup>みき</sup>（義姉・長女）

2歳年上の姉。同じ高校に通う。

文武両道、活発な性格で、学校では人気の的。家庭でも、主人公のことをからかい気味に振り回したりと、明るく接してくる。

毎朝主人公をたたき起こしに来たり、本人が所属する委員会活動に誘ったりと、世話焼きな面もある。が、それも最初の H イベントに到達するまでで、それ以後はしおらしい感じも台頭して、姉としての魅力が急減してしまうので残念。

2通りのエンドのうち、ベストでない（と意図していると思われる）方が“姉弟以上恋人未満”の締めくくり方で、濃い姉属性には不満な内容。逆でしょ？“恋人以上姉弟未満”が正しい。

### ・羽田 愛音<sup>あいね</sup>（義姉・次女）

1歳年上の姉。同じ高校に通う。

未来姉と対照的に、おとなしく、控えめな性格。未来姉に負けず劣らず優等生なのだが、いつも姉と自分を比較して、劣等感を抱いている。この性格が愛姉のシナリオに大きく関わっています。

劣等感と言っても暗い性格ではなく、むしろおしとやかなイメージが先行する姉。お願いされると断れないたちなので、甘え

ん坊の弟は、ここぞとばかり甘えましょう。押しに弱い性格が災いして、ゲーム中唯一鬼畜ルートを持たされています。

### ・羽田 麻衣（義母）

姉2人の実母。

貞淑で慎ましやか、微笑を絶やさない母親です。高校生2人を子に持つ母親とは到底思えない外見なので、母（義母）の趣味が無くても大丈夫。少し年の離れた姉と思っても構いません。

麻衣さんも唐突に主人公の下半身に迫ってきます。何故いきなりそういう行動に及んでくるのか、ちょっとくらい匂わせる前置きがあっても良いように思うのですが…。

### ・長田 まりも（先輩）

テニス部のアイドル。幼めで、ぼや〜とした天然系。この後、妹キャラも控えているんだから、風格を兼ね備えた先輩であって欲しかった。あるいは見た目と裏腹に、実は包容力のある先輩とか…。姉属性に響く要素はかなり低いんじゃないでしょうか。

### ・早坂 彩乃（幼馴染み）

真っ正面な妹キャラ。亡き父親の友人の娘で、主人公をお兄ちゃんと慕ってくる。

徹頭徹尾妹キャラなので、全姉連的には興味なし。妹としては良い出来なんじゃないでしょうか。推測でしか言えませんが(笑)。

## ■ 姉ゲーとは言い難いものの…

年上に傾きつつも一般作を維持しようとした1本だったようで、姉ゲーとばかりに先走った自分が悪かったか。シナリオよりもシチュエーション重視で楽しむと吉。

3P・4P コースは良い感じですよ。酒の入った羽田姉妹はかなり萌え！(笑)



## Crescendo ～永遠だと思っていたあ

の頃～

メーカー	D.O.
ジャンル	純愛ノベルアドベンチャーゲーム
発売日	2001年6月29日

主人公 佐々木涼は卒業を5日後に控え、不足した出席日数を埋めるための補講へ出席していた。

その中で静かに振り返る思い出の日々。3年間を仲間と共に過ごした図書室。

気の置けない友人。

照れ屋の後輩。

なんとなく好きになれなかったクラスメイト。

授業を抜け出して昼寝した保健室。

冷たい美貌の養護教諭。

両親の死後、自分を育ててくれた義理の姉。

そして――

「卒業」という節目の時を前にして、だからこそ。徐々に強く、そして激しく。

それぞれの想いは募ってゆく……

昨今の浮ついた萌え志向<sup>1</sup>のギャルゲーに対抗するような落ち着いた雰囲気に見事に呑まれてしまいました。ゲーム屋が慣れないことをして失敗するようなこともなく、終始この雰囲気が維持されていて、シナリオの良さとも重なり、印象深さの点では他の追随を許さない出来となっています。

原色の髪の毛の女の子が出てくるようなけばけばしさ一嫌いではありませんが一は無く、こびを売るような演出もないので、心休まるゲームと言っていってもいいかも知れません。

その意味で、単純な「萌え」を求めることはできませんし、そもそも筋違いです。萌えゲーと呼ぶには少々抵抗があります。

グラフィックは少々クセがあるかも。少女漫画が難なく受け入れられる人であれば全く気にならないと思います。私には好印象でした。

### ■知る人ぞ知る名作姉ゲー

最初は私も姉ゲーとはにわかには信じがたかったのですが、Webでの評価を見ても「姉ちゃんのシナリオが凄い」「年上スキューでこれをやらなきゃモグリ」「あやめ姉～～！」等々、とにかく姉ゲーとしての評価が非常に高く、勧められるままにプレイしてみました。

### ■上品なクラシックのBGMと

### 純文学調のテキスト

### ■先生、そして姉ちゃん…

本作における年上2巨頭の香織先生とあやめ姉ちゃん。

まずは小手調べとして、養護教諭である香織先生を狙ってプレイ開始。

…良い！非常に良い！

先生と生徒という古典的なテーマを、真つ正面から誤魔化し無く突いていきます。

<sup>1</sup> 突飛な思考回路や、独特の口調、狙ったコスチュームなど、要素は様々。

高校生である主人公の青臭さをこれでもかと感じさせ、その事が大人の女性である先生の魅力を際立たせています。

これは大いに期待できると、先生クリア後は同級生・下級生キャラのシナリオを済ませ、大御所のあやめ姉ちゃんルート。

序盤、控えめな姉度が中盤からエンジンがかかり、終盤の衝撃的な展開にオーバーヒート。

萌え尽きた…あやめ姉ちゃん、凄い。姉ゲー姉ゲーと称される理由がよく分かりました。

## ■キャラクター

### ・柳楽 歌穂（同級生）

主人公と文芸部で3年間過ごしてきた仲の同級生。

形式上、ヒロイン的地位です。

他人に気を遣い、恋心まで後回しにして来た結果をどう清算するのか。

下級生である杏子とのシナリオとセットにして初めて味の出るキャラクターです。

しかし、三角関係がどうしてもつきまとうので、私にとっては辛かった。(悪いわけではないですよ?) 味方によっては悪役になりかねないので、歌穂にしてみれば損な役回りだったでしょう。

### ・芦原 杏子（下級生）

同じ文芸部の2年下の下級生。

どちらかという内気なタイプ。卒業前の主人公に思い切って告白するが…

ちょっとした反応や仕草が可愛かったりします。

内気なはずなのに、時に勇気を出す所や、性格の繊細さに反するかのように背が高く、体格が良かったりする所のギャップが楽しいかも。

うぶな所も見られる杏子に、三角関係を

強いるのは可哀想でしたね。

個人的に、背が高い女の子はそれだけで加点事由なので、下級生というハンデを見事に相殺しました。(笑)

### ・音羽 優佳（同級生）

それまではあまり親しくはなかった同級生。

遊んでいるように見え、素行も良くないように見えるが…

心に傷を負う少女のお話。心を打ちます。

年上キャラではありませんが、優佳もちゃんとクリアしましょう。もったいないです。

ノーマルエンドはかなりブルーなので、先にトゥルーエンドを見ることをお勧め。

### ・紫藤 香織（高校の養護教師）

主人公の通う高校の養護教師。

さぼるために保健室に入り浸りの主人公を3年間見守ってきた。

主人公との接触を拒否するわけではないが、常に距離を置いて接してきた、乾いた印象のある先生。常にどこか淡泊で、皮肉っぽい。

成り行きでデートをすることになるが、そこで嫌というほど思い知らされる主人公の大人になりきれていない部分。「それでもいいさ」と言いつつ、一見突き放したような、でも優しさを見せる所は年上たる余裕か。

ゲーム中はすっかり気分が高校生に戻ったかのようで、すっかり感情移入してしまい、クリア後は呆けてしまう程でした。

「お姉ちゃん」ではなく「お姉さん」でもなく、「年上の女性」への想いを見事に感じさせてくれるシナリオ。あやめ姉ちゃん目当ての人も、香織先生はクリア必須です。

## ・佐々木 あやめ（主人公の義姉）

ここまで読み進めてもらった人ならお分かりのように、この作品中の実質ヒロイン、あやめ姉ちゃんです。

噂に違わず、素晴らしい姉でした。

この姉ちゃんの良さをどこまで伝えられるかどうか、姉好きの総裁でも自信がありません。

あやめ姉ちゃんは、例えば、思いっきり甘やかしをするだとか、常に誘惑ラブラブ光線を発しているとかいった姉っぷりを発揮しているわけではありません。

むやみに干渉したり甘やかすこともなく、厳しく叱りつけることもない、時にはケンカもする。なのに、こんなに優しさを感じさせる姉ちゃん。それはあやめ姉ちゃんの心の中は、常に弟のことを大事に思う気持ちで一杯だからこそできること。

あやめ姉ちゃんの心の内を徐々に紐解いていき、中盤からエンディングに至るまでの怒濤の攻撃で姉萌え臨界点を越えてしまうことは、姉属性なら間違いなしです。今後、どんなに姉ゲーが出ても、あやめ姉ちゃんを越える姉が出てくることはそうそうないでしょう。

単なる「姉萌え」の言葉で終わらせてしまったら安っぽくなるほど感動します。非姉属性の人にも勧めたい。これですっかり姉に転向してしまう人もいるだろうから。

## ・静原 美夢（同級生）

全シナリオクリア後に登場する、いわば隠しキャラ。

ほぼ確実に気付くはずなので、ここでは隠しません。

彼女のシナリオを表す言葉がいくつか思い浮かぶのですが、どれも興を削ぐようなものなので、省略。

最後に一つこういう話を入れておいてくれるのも粋かな、と思いました。

## ■フルボイスDVD版が出た!

このゲーム<sup>1</sup>、最初の発売は2001年9月なので、厳密には2003年の姉ゲーとは言えないのですが、2003.7.25 姉ゲーラッシュ<sup>2</sup>とともに、フルボイス版+追加シナリオのDVD版としてリニューアルされました。

しかし、このDVD版は限定2000本発売だったので、現在では少々高値<sup>3</sup>が付いているようです。DVD版発売当初はまだCrescendoをよく知らなかったの、買わずに来てしまいました…

私は、普段はボイスの有り無しにこだわらないのですが、あやめ姉ちゃんのボイスは聞いてみたいような、聞いたらイメージが壊れてしまうような、で。

## ■属性問わずお勧め

以上のように、とにかく一級品の姉ゲーとしてお勧めできますが、そもそも姉属性を意識して製作されたゲームではないので、一般的にもかなり受け入れられるはず。

シナリオを重視するプレイヤーなら、やってみて損のない1本です。

クリアに要する時間的には短いので、忙しい人にもお勧め。客観的には短いですが、その分密度が濃いので、主観的なボリュームはあると思いますよ。

<sup>1</sup> ゲームというより、作品と称した方が良いかもしれない。

<sup>2</sup> 「ドキドキお姉さん」「お姉ちゃんの3乗」も同日発売され、姉ゲーXデーとも呼ばれる。

<sup>3</sup> といっても1万円もあれば手に入るか。

## ～姉萌えと兄弟姉妹の相関関係～

2003年11月下旬、普段お世話になっている QZ さんのサイト「姉しよ」と全姉連が合同でオフ会が開かれました。

会場は、東京・青山の「柊屋」。もちろん、あの「姉、ちゃんとしようよっ！」の柊家とかけあわせる意味で。

当日は午後6時から10時過ぎまで、時間を忘れての姉談義に花が咲き、かくも同じ属性同士の飲み会は楽しいものかと思えました。第2回以降も開かれるかも知れません。その時は、全姉連総本部サイトで告知します。

閑話休題。

そのオフ会にて、かねてから興味があった質問を、私も含めた参加者10人に行ってみました。その質問は、

「実際の兄弟姉妹では、誰がいますか？」

当日のオフでは、「姉、ちゃんとしようよっ！」が好きで、そのほとんどが姉属性という人ばかりでしたので、ちょうど良い機会だと思った訳です。

結果の予想としては、二つありました。

1. 実際には姉の居ない人が、姉萌えに走る
2. いや、姉の居る人の方が、実際の姉に失望して姉に走る

いずれにしても何か面白いことがわかるかと思ったら、結果は、

姉…3人 妹…2人

兄…2人 弟…2人 妹+弟…1人

のように、実は、有意な差は認められませんでした。

しかし、これはこれで「実際の兄弟姉妹と、萌えは別」との仮説が成り立つとも言

えます。

思うに、姉萌えには2通りの萌え方があるんじゃないでしょうか。

実際に姉持ちの人は、「こういう姉だったらなあ」とか「(主人公の) そういう気持ちも分からなく無い」といった、現実になぞらえた萌え方。

実際には姉がいない人には、「姉がいたらこんな風な生活なんだろうか」「こんな風に甘えてみたい(叱られたい)」のような、空想の世界で思いをはせる萌え方。

そして、後者の方が思いこみや想像が先行する故、深みにはまるような萌え方をする傾向があるんじゃないかと考えてます。

逆に、姉持ちの姉属性は、理性的な萌え方をしているように思われます。

分かりやすく言えば、どうして姉好きなのかを尋ねた時に「だってお姉ちゃんだから」としか言いようがない人と、「姉というものは…」と分析できている人の違いでしょうか。

まあ、サンプル数は10と少なく、上述の推測もさしたる根拠のないものですから、話半分、あるいはそれ以下と思って下さい。

ちなみに私は弟のみで、姉は居ません。

姉持ちの人は、それだけで羨望の対象なのですが、姉ゲーをしながら「お姉ちゃんが欲しいッ！」ともどかしく思う気持ちが、姉萌えを増幅させるエッセンスなのだと考え、これはこれでいいのだと思うようになりました。

でもやっぱり…



## 秋桜の空に

メーカー	Marron
ジャンル	癒し系ADV
発売日	2001年7月27日

季節は秋。紅葉の鮮やかな街。

主人公は、自覚はないがその無茶苦茶な言動で学園中から一目置かれる変わり者。

隣のお姉さん桜橋涼香や、愉快的なクラスメートに囲まれ、ドタバタ喜劇な毎日を送っている。

秋の訪れと共に運ばれる新しい出会いや、深まっていくそれぞれの思い。そして、始まる学園祭の準備期間で学校に泊まり込む日々。合宿のような楽しい毎日の中で、主人公の奇抜な行動が巻き起こす騒動に少女達は振り回されっぱなしだ。

だが、そんな生活の中に見え隠れする彼の優しさに、やがて少女達は引かれていく。

それぞれ深いトラウマを持ちながらも日常を生きる5人の少女たち。

学園祭や体育祭を通じて、彼女たちの心の傷に触れ、それに触発されるように主人公自身の哀しい過去もまた甦る。

切なさを感じさせる秋風の中で、恋する主人公と少女たちはお互いの心の傷を癒し合っていく。

その恋の終わりにどのようなものが待ち受けているかも、知らずに……。

### ■ダダ甘お姉ちゃんだぞっつ

全姉連として、この「秋桜の空に」を取り上げないわけにはいきません。元祖ダダ甘姉として、発売後2年を経過しながら<sup>1</sup>、今なお全く色あせず甘やかし女王の座に君臨するすずねえ。同社の2本目のタイトル

<sup>1</sup> ドラマCDは2003年の今でも出され続けているので、広い意味で2003年の姉ゲーってことで。

「お姉ちゃんの3乗」で見た甘やかし姉の原型が、この時既にできあがっていました。

シナリオは竹井10日氏。あくまで褒め言葉として言わせてもらえれば、氏の繰り出す姉萌えテキストは常軌を逸しています。頭を割って中を見せてもらいたいくらい。

### ■個性的な登場人物

「秋桜」の魅力は、すずねえだけでなく、他の登場人物の魅力的な個性にもあります。同級生、下級生、先生と、学園物に必要な要素は充足していて、しかも皆特徴的。

突出した個性を持たせると、他の登場人物との掛け合いをまとませるのがライターの技量の見せ所ですが、これがよくまとまっていて、複数がつるんで<sup>2</sup>ドタバタするイベントが多数あります。このドタバタぶりの楽しさが人気を得た理由の一つだと言えるでしょう。

また、主人公の行動や発想の奇抜さが楽しい<sup>3</sup>のも忘れてはならない部分です。

### ■あのゲームに似てる？

事前情報で見知っていたのは、Tacticsの

<sup>2</sup> 秋桜の場合は、特に「つるむ」の表現がぴったり来る。

<sup>3</sup> 主人公が生き活きとしていないゲームは、いくらヒロイン達が盛り上げてくれても、物足りなくなりますがね？

往年の名作「ONE～輝く季節へ～」に似ているということ。

やってみて納得。確かによく似ています。ノベルの形式や、登場人物の個性の出し方、そして全体のシナリオを支える設定など。

それでも、パクリとまで非難されないのは、秋桜にはオリジナリティがふんだんに盛り込まれているからでしょう。特に、すずねえの甘やかし要素は、ONE どころか、今まで他のゲームには見られなかったほどですから。笑いの部分も、竹井氏独特のノリで繰り広げられ、新鮮ですし。

## ■雑を挙げれば…

やはりシステム面が弱いと言われているのは本当で、Win2000/XP 未対応<sup>1</sup>なのも痛い点。但し、動かす方法はあります<sup>2</sup>。必ず修正ファイルを適用するなどしてプレイして下さい。

また、美麗CGや、妖艶なフルボイスを望む人だと厳しいかも。秋桜はそちらの方面を志向してはいないので。まあ、典型的な萌えゲーですから、逆にその方面に凝られていると戸惑ったと思います。

シナリオも、後半はワンパターンに陥りがちだったのが残念といえば残念でした。

すずねえとのダダ甘な時間を過ごしたい諸弟には、どれも致命的な欠点ではないと思いますけどね。

## ■キャラクター

### 桜橋 涼香（すずねえ）

すでに一種の発明ではないかと思うほど

のダダ甘お姉ちゃん。とにかく本作はこのダダ甘お姉ちゃんに全てが集約されているとっていいほど。このすずねえが、後の姉ゲーで、甘やかし姉の元祖<sup>3</sup>として多くの手本になったことは明らかです。

呼べばどこからでも飛んでくる。添い寝やお風呂は、弟が望むことならたとえ年頃の高校生でもお構いなし。かわいい弟が絡むことになると、事の見境がつかなくなる。現実にはあり得ないようなことも、毎日手を変え品を変えて甘やかされると、これがどんどん心地よくなっていくので、むしろ危険。すずねえと、主人公であるお隣のオミくんとは、そこらの恋愛感情を超越した姉弟愛で堅く結ばれているのです。よって、身の回りの世話はもとより、弟に言い寄る女の子のチェックに至るまで、その甲斐甲斐しさはしっかり小姑。焼きもちをやいた時にはお姉ちゃんぱんちっっっ！

### 楠若菜（カナ坊）

同級生のちんまい女の子。

高校生とは思えないような可愛い容姿、仕草や言動は、すずねえの姉っぷりと相殺してバランスを取っている感じさえします。決して妹派向けというわけではなく、たとえ姉萌えなプレイヤーであっても、カナ坊の魅力には姉萌えも一歩後退するかも。2003年の夏コミを見る限り、一般的にはカナ坊の人气が最も高かったように見受けられました。

病弱のため学校を休みがちという設定ですが、暗い印象をもたせることもなく、シナリオにも上手く活かされています。

カナ坊シナリオだけではないですが、普通はマイナス要素に働くことでも優しい要

<sup>1</sup> 本当に動かないので、要注意。

<sup>2</sup> 「秋桜の空に ISM」などでネット検索してみれば見つかります。

<sup>3</sup> 「姉、ちゃんとしようよっ」の海姉ちゃんイベントでは、公然とネタにされている。



素に転換されているのが、竹井氏の描く世界の特徴ですね。

## 尼子崎 初子

典型的トラブルメーカー。

ノリの良いボケと突っ込みは、主人公の奇抜な行動とかみ合って、さながら夫婦漫才。常にドタバタの源泉です。初子のお陰で、学校のシーンでの盛り上がりが存在します。

それでいて、ただのおちゃらけではなく、ちゃんと締めるべき所は締めている点が、シナリオを破綻させずにまとめる結果に。友情にも篤い所<sup>1</sup>が魅力の一つでしょう。

なお、初子は眼鏡・巨乳・巫女の贅沢な3属性装備。

## 小泉 ひより（ひよ先生）

教育実習の先生。とにかくドジで、ハラハラさせられて、どこか天然な先生。凹んだ時の口癖は「くしゅー」。

天然系って、見ていてイライラするようなこともあるんですが、ひよ先生については全くそんなこともなく、好感度高くて良いです。

教育実習生とは言え先生なのですが、「教師」のイメージは皆無(笑)。おまけに、年上の威厳もほとんど無し。でも可愛いんで許してやって下さい。

最後まで通してプレイした後に、先生の感情を押し量ってシナリオを反芻すると、違った味わいが出てくるはずです。

また、ひよ先生のシナリオに付随して登場する子鹿ちゃんも良い味出しています。

## 佐久間 晴姫（はるびー）

水泳部の一員。女子水泳部の臨時コーチ

になった主人公に、なぜか極端に突っかかってくる。その嫌い方は、主人公の奇想天外な言動と相まって、エスカレート。序盤はひたすら追いかけて回され、蹴られまくりです。

こんな調子でホントに攻略可能キャラなのかと思うほどですが、ちゃんとツンデレ<sup>2</sup>に仕上がっているので、期待すること！

スクール水着好きとメイド服好きも、最後まで注目です。

## ■姉ゲーで済ませは勿体ない

系統としては、前述の「ONE」や「Kanon」にも通じるものがあります。コミカルな個性付け、日常の細かなイベントから、終盤への非日常的なシナリオへの移行等々。

発売後2年を経てなお関連商品が発売され、オンリーイベント<sup>3</sup>も開かれるほど、今も人を引きつけるゲームです。

姉ゲー好きにしてみれば、どうしてもすずねえの甘やかしっぷりにばかり目がいつてしまいますが、それ以外の面も非常に魅力的なので、たとえずずねえ抜きでもお勧め！って、もうすずねえ抜きでは考えられないほどの姉ゲー、いや、すずねえゲーなんですけどね。

言われなければ姉ゲーと気付かない1本。知らずに買って、姉属性に目覚めちゃった人も多いんじゃないでしょうか。

もし、姉萌えに引きずり込みたい人がいたら、秋桜をやらせてみるのが一番かも知れませんよ。

<sup>1</sup> これが発揮されるのは、特にカナ坊シナリオにおいて。

<sup>2</sup> ツンデレ=ツインテール説が法則になりつつあるように思うなあ。

<sup>3</sup> クリケット。Marron=栗から。

## ～ダダ甘のススメ～

ついこの間まで、総裁ことこの私は「かわいい男の子～」とからかう年上や、「姉の言うことを弟が聞くのは当然でしょ？」と言うような姉がタイプなんだと思っていました。

しかし、それをくつがえし、総裁に新たな姉属性を芽生えさせるゲームが登場してしまいました。

それが、あの「お姉ちゃんの3乗～おねえちゃんきゅーぶ～」(以下おねきゅー)だったのです。

おねきゅーは、その満載のギャグに注目を浴びがちですが、やはりここは本来の趣旨たる“甘やかされ系ADV”の部分に注目すべきです。

もう飽和に達した砂糖水に容赦なく砂糖を加えてべとべとになったが如くダダ甘なゲーム、それがおねきゅー。

普通はバランスを取るために、一人ぐらい高飛車系や綾波系などをいれることを考えるものですが、それを破って「全員ダダ甘」という無謀が、かえって一回りして、ダダ甘を成功させているのだと感じました。

では、なぜダダ甘が良いか。

ダダ甘には、抵抗すべき要素が無く、受け入れざるを得ないからです。

「あらあら、照れちゃってカワイイ～」とか「焼きそば買って来なさいよ、このイカ」などと言われたら、男によっては突っかかりたくなる心情も理解できなくありません。(総裁はどちらも喜びますが！)

しかし、「お姉ちゃん、みくちゃんのためなら嘔まなくてもすむように口移しでご飯

食べさせてあげるのよ？」「みくちゃん、寒い？お姉ちゃんが暖めてあげようか？はいとイエスとどっち？」などと思いきり甘やかされて抵抗できる男などいますか？  
(いないと言って下さい)

また、結局の所、男などいつまで経っても心の奥底では甘えたがりなのです。

妹属性で、甘えてくる妹に萌える男も、甘えられているようで実は男の方も甘えているという事実に目を向けるべきです。

そして、その甘え要素が最も相応しい立場こそ、姉なのです。

おねきゅー以外の元祖ダダ甘といえば、もちろん「秋桜の空に」のすずねえですが、これは同じ竹井氏による姉ゲーだから当然。それ以外では何と言っても「姉、ちゃんとしようよっ！」の海姉ですね。

「姉しよ」の方がおねきゅーより先にプレイしたので、海姉ちゃんのダダ甘にはさほど反応しなかったのですが、順番が逆だったらどうなっていたか分かりません。

たった1本のゲームで新たな属性を目覚めさせてしまったおねきゅー恐るべし。

# トゥルーラブストーリー Summer Days and yet...

メーカー	エンターブレイン
ジャンル	恋愛シミュレーション
発売日	2003年7月24日

キラキラ輝く真夏の恋を体験しよう！  
好きなこと話せただけで嬉しかった休み時間…。  
女子の授業が気になって仕方なかった夏のプール。  
緊張しながら二人で歩いた放課後の帰り道…。  
いつもでもそばに置いておきたい想いが、  
ここにあります。

## ■王道恋愛シミュレーション

本書中、唯一のコンシューマー機(PS2)のゲームです。

今年は PC の方で姉ゲーが台頭したこともあって、恋愛シミュレーションを今さら1プレイして、満足することが出来るのだろうかと不安ではありました。

しかし、その心配は全く無用でした。

非 18 禁のギャルゲーには許されないエロ要素がない分、じっくりと登場ヒロインとのコミュニケーションが図れ<sup>2</sup>、イベントを発生させ積み重ねていくシナリオ進行は、アドベンチャータイプのゲームに慣れきっていても楽しくプレイできました。この辺は、システムが飽きられないよう、よく練られた結果だと思えます。

グラフィックや BGM も全く隙のない充実の出来栄え。この辺に、コンシューマ機のゲームと PC 用のゲームの開発規模の違いをあらためて見せつけられます。絵のタッチは TLS シリーズの中でも取っつきやす

い部類ではないでしょうか。

## ■ついに姉が!!

過去の TLS 3 作のうち、1 及び 2 は手を出したことがあるのですが、今ひとつ乗り切れなかった経験があります。

なのになぜ本作に興味を引かれたか。

それは、ついに主人公に姉ができたという事に尽きます！

知らない方のために説明すると、TLS シリーズには女の子との恋愛進行度を妹に聞きに行くと教えてくれるというシステムがありました。3 では姉とは言え双子だったので姉要素は無かった所、それが今作に至って遂にれっきとした「姉」が取って代わったのです<sup>3</sup>。

ゲーム中はほぼ毎晩進行チェックするのが通常なので、ということはつまり毎晩お姉ちゃんに理由を付けつつ会いに行けるといこと。お姉ちゃん大好き弟にはたまりません。1 や 2 では大して嬉しくもなかった進行チェックが、楽しみで楽しみで。

毎晩毎晩、同じ事ばかりして楽しいのかって？同居していて、普通に生活しているお姉ちゃんですよ。お風呂に入ることもあれば、着替えをしていることも当然あるわけで…期待しない弟の方がどうかしているというモンです。

<sup>1</sup> 総裁自身のギャルゲー遍歴は、ときメモにさかのぼります。その意味で、今回の恋愛シミュレーションは原点回帰。

<sup>2</sup> 至極当然のことなのだが、18 禁ゲームに偏っていたので忘れてしまっていた。

<sup>3</sup> 公式ガイドブックの開発者インタビューでは、ヒロイン並みに妹に人気が出てしまった教訓を生かして姉にした、とありますが…

## ■PS2 なのに…

実は TLSS を始めたのは、発売後しばらくたってからなのですが、TLSS を先に始めた人の話のほとんどが「エロい〜！」と口にしてるんです。一体何が…と書いていたのですが、やってみてわかりました。

見ようによっては、取りようによっては、エッチな想像をかき立てるような CG とイベントが多々用意されています。見えてしまった下着より、見えなかったので勝手に脳内で補完された下着の方が何倍もエッチに感じる妄想派の貴弟なら、きっと感じ取ってくれるでしょう。TLSS を何倍にも楽しむコツは、行間を読むことです。

そうエッチなイベントに限らず、投げっぱなしで終わるイベントが見受けられるのも特徴です。放ってあるわけではなく、「この先は妄想して楽しむべし」とのメッセージが込められていると私は感じたのですが、どうでしょう？

## ■公式ガイドブック必携

「今日の目標」システムなどで、プレイ周りはシリーズの中でも比較的分かりやすいのですが、フルに楽しもうと思ったら、やはり公式ガイドブック<sup>1</sup>は必須です。ある程度プレイ時間を確保できる人なら、一度クリアした後にガイドブックを見ながら補うという楽しみ方がベストですけど。

情報は見やすく網羅されていますので、思い切って買ってしまっても良いでしょう。

## ■キャラクター

これを執筆している時点で、既に攻略完了済みの2人+姉だけの紹介とさせていただきます

ます。未紹介ヒロインに年上はいません。

### ・有森 瞳美（先輩）

1つ年上、高校3年生の先輩。学園のマドンナ的存在。優雅で品のあるお嬢様ながら、物腰が柔らかかで、愛嬌もある先輩です。

主人公が初めから憧れに思っている先輩で、このことをもって彼女をメインヒロインと認める説もあるほど。もうこの先輩は非の打ち所がないですね。私の知り合いで信頼できるセンパイ属性某氏も文句なしの太鼓判を押していますので、先輩好きのツボを突くことは間違いありません。

瞳美先輩のイベントは、彼女の優しさや気さくさを象徴するイベントが多く、急接近して主人公がドキドキしているのに、先輩としての余裕か、意に介さず接してくる所は年上スキのツボを心得ています。

恐るべき甘党だったりする点や、こんなにおしとやかな人なのにコアなハードロックファン<sup>2</sup>だったりするギャップがアクセントに利いています。

### ・神谷 菜由（同級生）

自分に正直に生きることを信念とする、わがまま娘。関わったが最後、振り回される一方ですが、竹を割ったような性格で憎めないタイプ。

男勝りさえするキャラクターは年上でなくても好きな方なのですが、それ以上に彼女を早いうちに攻略したのは、そのシナリオの一つが「るり編」と呼ばれ、るり姉が非常に大きく絡むストーリーだからです。

このシナリオは、コンシューマ機のギャルゲーにおいて、最高最強の姉萌えシナリオであると、わたくし全姉連総裁は断言したいと思います！

<sup>1</sup> エンターブレイン刊。ISBN 4-7577-1565-X

<sup>2</sup> 選択肢に“ハードロック”が含まれる場合は、まずこれを選んでおきましょう。

シナリオが進むにつれて吐露されていく主人公のシスコンぶりは、年上スキーの中でも“姉”好きな弟であれば、大いに共感でき、感情移入してしまうこと必至。ラストも納得のいく締めくくりです。

結局の所、るり姉の攻略ルートは存在しないのですが、神谷の「るり編」は事実上それを代替するシナリオ。必ずクリアしておいて下さい。

## ・るり（実姉）

姉好きにとっては TLSS のヒロイン、ルリ姉<sup>1</sup>です。

「趣味・弟をからかう」「好きなこと・弟をからかう」「嫌いなこと・弟にやさしくする」と、実は無類のブラコンか？

からかい方は生半可じゃありません。お願いをしてくる時は胸をぎゅうぎゅう押しつけたり、スクール水着を着ればそれを見せつけたり、弟の視線の反対側のスカートをまくり上げてひらひらさせたり、時々発せられる「サンキュ！愛してるわよっ！」のセリフ…思春期の高校生男子を何だと思っているのか。弟をからかうにも程があります。もっとやれ。

なお、この家庭、父は留守がちで、母親は訳あって居ません。よって、ゲーム中はほぼ姉弟2人暮らしの感覚です。そして、炊事洗濯はほとんど弟の仕事。ご飯作って～とせがんでくる姉というのも新鮮です。炊事はまあ良しとして、洗濯も弟の担当。姉の下着や姉のブルマだって洗います。これもるり姉の趣味の一環なのか？おねえちゃんのぱんつとおねえちゃんのぶるまあ…主人公がちゃんと理性を保っているのか、私は心配です。

と、るり姉は小悪魔的な笑顔で今日も弟をドキドキさせる事に余念がないのです。

<sup>1</sup> 本編ではカタカナで「ルリ姉」と呼びかけている。

## <るり姉イベントガイド>

公式ガイドブックを参考にしています。

高・中・低は、私がプレイした時の感覚による出現確率です。高と言っても、るり姉イベントの中で相対的に高いだけです。

### 【突然の雨に打たれて（帰宅後）・高】

ずぶぬれで帰ってきたるり姉。夏服でも黒いのがうらめしい。CG 付き。

### 【深夜にノック、ノック（就寝後）・中】

スママセン。どんなイベントだったか記憶が…

### 【150円！（帰宅後）・高】

るり姉の抜け目なさがよく表れているイベント。こういうのも姉弟ならではだなぁ。

### 【扇風機であー涼しい（帰宅後）・高】

扇風機がエロアイテムに変身する問題のイベント。弟にとってこれほどきついからかい方はない。女なんて家に帰ればこんなもんだ、と言うなら是非私に見せて頂きたい。CG 付き。

### 【寝る前には歯を磨こう（就寝前）・中】

自分とるり姉の歯ブラシを間違えたのを見つかって…というイベント。え、これだけ？と拍子抜けしてしまうのですが、それが逆に凄い所。どうしてあっさり終わってしまうのか、説明はプレイヤーの妄想に任されています。

### 【ルリ姉に限って……（帰宅後）・中】

主人公のシスコンっぷりがよく表れたイベント。るり姉より、主人公に萌えるイベントか。我が分身よ、お前って奴あ！

### 【お腹空いたー、ごはんー（帰宅後）・中】

問題イベントの一つ。凶悪です。これはもはやセクハラです。ひどい、ひどすぎる。TLSS がエロいと評価される原因の一つ。いっそ殺せ…。CG 付き。

### 【探し物はなんですか（帰宅後）・中】

お姉ちゃんの部屋に侵入。そこで弟が見つけたものは？選択肢は「タンス」を選ぶこと。

**【手が離せないから用事は後(帰宅後)・中】**

るりチェックを聞きに行った時に発生。ちょっと手が離せないからまたあとでと断られる、たったそれだけのイベントなのだが、どうみても誘ってるとしか思えない体勢のCGが凄い。

**【日曜日は洗濯日和(日曜日)・中】**

前述のように、洗濯は弟の仕事。お姉ちゃんの洗濯物ならボクだってよろこんで…

**【おでんがいいな(土曜又は日曜)・中】**

ガイドブックにはなぜか未収録なので、勝手に命名。

夏なのに「おでんが食べたい」と書き置きを残するり姉。

しょうがないな、と主人公がぼやいておしまいのイベントで、あとは全てプレイヤーの想像に任されています。

この一件で垣間見える姉弟関係一即ち、「姉の言うことは絶対服従」が築かれているのか、あるいはお姉ちゃんが望むならイヤとは言えない弟心なのか、どう受け取るかは好みに応じて。

**【ちょっと来てー(帰宅後)・極めて低】**

**【きゃー、エッチー(帰宅後)・極めて低】**

お風呂&着替えの、同居姉生活2大イベント。登場キャラ全員クリアまでにそれぞれ1度ずつ見られるくらいの低確率イベン

トと思われます。

実は現時点でまだ遭遇できていません。うちのるり姉はガードが堅いです…。どちらも当然CG付き。

**【これってデート?(特定の日曜日)】**

このイベントは発生条件があります。まず、誰かと休日デートの約束にこぎつけます。その後デートの日までに他の女の子と下校している所を目撃させ、不機嫌状態のまま日曜を迎えれば確実に発生。

デートが断られたのを知ってか知らずか、るり姉に街を連れ回される弟。デートのテーマ曲が流れるので、ここはお姉ちゃんデートと捉えるべき!

「お姉ちゃんはね、実は君のことが…」と都合良くはいきませんが、血を分けた、付き合いの長い姉として色々と語り始めてくれます。やっぱりお姉ちゃんはお姉ちゃんだ、と思わせてくれるイベントです。普通にやっていたのでは見られないイベントなので、頑張っ



そろえましょう。

◆このページのるり姉イラストは、和良さんに贈って頂きました。どうもありがとうございました。

## 【和良さんによる姉ゲーレビュー・特別寄稿】

# モルダヴァイト

メーカー	オービット (CLOVER)
ジャンル	カードバトルSLG
発売日	2002年12月20日

「正義の召還師が、魔王を打ち倒し、世界に迫り来っていた危機から人々を救った」

この地には昔から言い伝えられている、ひとつの伝説である。この伝説に憧れ、世界一の召還師を目指す少年がいた……

しかし、伝説をただのおとぎ話と信じない男たちは馬上で勇敢に戦うことに価値を求め、その少年を見て変わり者、臆病者と罵った。それでも少年は、召還師を目指し精進の日々をすごしていた。

そんなある日、見目麗しい吟遊詩人がこの町にやってきた。彼女の奏でる、その美貌に負けない旋律に人々は酔いしれ、虜になった。

「少年よ、伝説の召還師を目指すならば、彼の地に散らばる伝説のカードをすべて集めなさい。そして、あなたの持つ伝説のカードとそれらが揃いになるとき、あなたは生きながらにして伝説となるのです」

吟遊詩人が託した言葉に、少年は心打たれた。そして、まだ見たことのない異邦の地へと旅立つ決心をする。家宝として大事にされていた、一枚の召還カードを手に…

## ■序

このゲームを姉要素を期待して買う人は恐らくいないと思われる。実際、公式サイトでの紹介を見てもそれらしい要素はない。

いわば隠れ姉ゲーとでも言うべきものであり、姉要素は表に出ず、隠れているところに味がある。

## ■システム

ADV 風のインターミッションと、SLG

風の戦略パートにわかれています。

この手のゲームでは ADV パートの選択肢で好感度が上下するものが普通ですが、ADV パートでは好感度の上下が起きず、SLG パート中にキャラ同士が隣接したとか、特定の行動をとったとかで上昇するという珍しいシステムです。(そのせいで若干攻略が難解になっています。SLG パートも、無策に突撃だけしていれば OK というわけでもなく、待ちは有効ですが、全く犠牲無しでのクリア、となると結構難関と思われれます。ですが戦闘不能状態になっても好感度が下がるわけでもないので、必要なフラグを取れば問題はないかと思います)

ADV パートは選択肢はほとんどありません。シナリオを読んでいだけと言って良いでしょう。

SLG パートの行動如何で濡れ場になります(SLG パート中の濡れ場はありません)。

SLG パートは主人公と仲間、および彼らが召還するカードのクリーチャーを使って、押し寄せる敵と戦います。

敵もクリーチャーを召還して来たりします。一部のシナリオを除いて全滅しない限り負けではありません。

仲間や主人公が倒れると、彼/彼女によって召還されたクリーチャーは制御を失って、敵味方の区別無く暴れまわるのでそれなりに自重して行動する必要があります。

姉要素を期待して始めるゲームではありません。期待していなかったからこそ、姉

要素が出てきてミョウにウレシイゲームです。

## ■キャラクター

### ヴァイン

主人公。ショタっこ。伝説の女神アテナのカードの伝承者。彼の故郷の「草原の国」では、男は豪傑のように力に秀でることを善しとされているので、彼のように華奢でなおかつ魔法とかに手を出してる者は少数派。序章ではしっかりいぢめられっこしてます。

### ステラ

お隣の従姉。おてんばさん。ヴァインより半刻前に生まれたので自称「お姉ちゃん」。いぢめっこからかばったりしてくれる。

ヴァインが他の女の人にデレ〜っとしたりするとお姉ちゃんパンチならぬ、「おてんばキック」が飛んでくる。

ヴァインより身長が1cm高い。おでこを合わせての背比べがポイントか。

### アネット

「森の国」のエルフ娘。コンラッド(後述)の妹。でもエルフは長命なので見た目はロリィだけど、ヴァインに好意を持ってからは、自称「お姉ちゃん」。

伝説のカード・グノーの継承者。過去に大きなヒミツがあるらしい。

### コンラッド

「森の国」のエルフ。アネットの兄。極度のメガネっ娘フェチ。イブリン(後述)に片思い。メガネじゃない女性に対してかなり偏見を持っている様子。

科学オタクでもあるところが変。残念ながらヴァインとのカラミはない(おい)。

### イブリン

メガネのお姉さん。「空の国」の図書館の職員。コンラッドの憧れの君。年下は趣味じゃないらしいが、ステラやアネットがヴァインに気があるのを知っていて、さりげなく、しかも余裕を見せながらヴァインにモーションをかけるあたりは只者ではない。

伝説のカード・ベリサマの継承者。隠れ酒豪。

### ドロテア

「海の国」の皇王。カワイイ女の子にしか興味がないらしい、エルハザードのファトラ姫みたいな人。見た目では一番のお姉さん。当然エラそうな口調でしゃべるので、そういうのがお好きな方にはたまらない。伝説のカード・アナヒタの継承者。

### ニナ

ドロテアの侍女。ドジっ娘。良く泣く。強いて言えば、この娘のみが(主人公にとっての)妹系キャラといえなくもない。

### シンシア

「密林の国」の獣人娘。猫耳。謎の盗賊団の襲撃により弟を亡くしている。ヴァインと出会い、彼を弟のように思っている(多少誇張アリ)。

でもって、自称「お姉さん」の人。やっぱりステラやアネットのヴァインに対する態度を知っていながらアレコレしてるあたりは只者で無い。

ペット兼相棒にサガという猛獣をつれている。酒豪。伝説のカード・ガイアの継承者。姉度数高め。

### カレン

「山頂の国」の眠り姫。何をするにも眠りながらやっている。ふわふわのもこもこに目が無い。シンシアの連れているサガに



も、「きゃんでー」と勝手に名前をつけて呼んでいるが、サガの方ではそれに逆らえないあたりでやっぱり只者でない。伝説のカード・パナケイアの継承者。

年齢的にはヴァインより年上だと思うんだが、寝てばかりで、台詞も夢うつつと言った感じで姉度はイマイチ低い。

## ユン

中華娘。「砂漠の国」で会う。「～アル」の口調が特徴的。ヘンテコな発明をしている。それは爆発はしないが暴走する。

## アマネ

旅の途中で出会った謎の女性。ゲーム本編では最初のお相手(笑)。やっぱりお姉さん系の外見。黒髪。

何故かステラのことを「お嬢様」と呼ぶ。

## 吟遊詩人

ヴァインを旅にいざなうきっかけとなった女性。旅の道標と言った感じでヴァインたちの行く先々に現れたりしている。

やっぱりお姉さん系の外見。銀髪。

## 吟遊詩人

本編では登場しない。体験版とチュートリアルのみ登場。チュートリアルをクリアしてご褒美をもらおう。

かいぐりかいぐり。

## ■さいごに

何度も言いますが、姉要素を期待して始めるゲームではありません。

姉要素などないと思って始めると、何故か途中で姉要素が感じられるイベントが起きたり、発言があつたりするわけで、良い意味で期待を裏切られる非姉ゲーな姉ゲーといえるでしょう。

問題点としては、SLGパートで矢鱈とリソースを食うらしく、HDDやメモリの容量に不安があると良く落ちるようです。(SLGパート中は自フェイズならセーブ可能なので、こまめにセーブすることである程度は対処できますが)

セーブ可能になる場所が限られている(ADVパートはセーブ不可。SLGパート開始前・SLGパート自フェイズのみ可能)のも問題でしょう。

オートモード・バックログの音声再生もありませんが、まあ我慢できないレベルではないと思います。

## 公式HP

[http://www.orbit-soft.com/clover/molda/pre\\_molda.html](http://www.orbit-soft.com/clover/molda/pre_molda.html)

-----

以上のレビューは、和良さんから寄せて頂きました。ありがとうございました。

和良さんが開かれているホームページ、「Untitled.」のアドレスはこちらです。

<http://www2.odn.ne.jp/~haq46220/>

## ～姉ゲー属性表～

	攻略可能人数	同居姉	先生	先輩	幼馴染み	年下	メガネ	ブルマ	スクール水着	メイド服	巫女装束	お尻	複数プレイ
姉、ちゃんとしようよっ！	6	○	○				○	○	○			○	○
お姉ちゃんの3乗	6	○		○	○		○	○	○		○		○
ドキドキお姉さん	6	○	○			○		○	○			○	
アネもネ	6	○	○				○			○	○		○
人妻コスプレ喫茶	6					○			○	○	○	○	○
ちよこれ～とDays	4		○	○			○						○
チェリーボーイにくびったけ	5	○		○	○	○		○					○
Crescendo	6	○	○			○	○						○
秋桜の空に	5		○		○	○	○	○	○	○	○	○	
トゥルーラブストーリーS	7	○		○	○	○	○	○	○				

- ・攻略可能人数は、そのキャラクターのストーリーの後にエンディングが流れるかを基準にしました。
- ・姉と先輩が重なる場合（同じ学校に通学）、先輩とは数えません。
- ・攻略可能キャラに年下が含まれる場合、年下に○が付きます。
- ・「アネもネ」の双葉姉は先生に数えました。先生としての登場時間も長いからです。
- ・「秋桜の空に」のすずねえは、先輩とは数えませんでした。先輩属性じゃないでしょう… 幼馴染みに数えたのですが、微妙です。
- ・「人妻コスプレ喫茶」、コスチュームによって先生とメガネが登場しますが、一時的な属性と見て数えませんでした。年下の○は、間違いではありません。

こうしてみると、「秋桜の空に」は幅広くカバーしていることが窺えます。  
「人妻コスプレ喫茶」は、他にもコスチュームが豊富なので要注意。

もし見落としがあったらゴメンナサイ。

## 姉ゲー元年を振り返って

### ■お姉ちゃん大躍進の年

“登場キャラは全て年上！”が積極的な売り文句となり、姉ゲーが決してキワモノではなくなったことが、2003年に起きた大きなパラダイムシフトと言えるでしょう。

以前にも、姉キャラ・年上キャラのヒロインは登場していましたが、どこか脇役的だったり、二番手扱いだったり…（この意味で、「秋桜の空に」の主演をはったすずねえは時代を先取りしていたと言える）

それが、今年に入ってから、「とにかく姉！」なゲームが次々と発売され、姉好きの弟達を、時間とお金の融通に苦労するという贅沢な悩みに陥れました。

### ■早々に名作登場

2003年、特にヒットを飛ばした姉ゲーと言えば、間違いなく「姉、ちゃんとしようよっ！」です。姉6人+サブキャラを含め、あれだけキャラが立っていて、その上きちんと姉キャラしているとなれば、姉好きが騒がないわけがありません。

「姉しよ」が姉ゲー界において貢献したのは、姉属性ユーザーだけでなく、非姉属性だったユーザーまでロコミで取り込んでファンを増やした点にもあります。「姉しよ」を体験することで全ての人が姉萌えになれとは言いませんが、姉の情趣を普及させ、理解を広める効果は非常に大きかったのではないかと思います。姉属性の裾野が広がることは、今後きっと良い影響になるんじゃないかと期待しています。

間口の広い「姉しよ」に比べ、「お姉ちゃんの3乗」は、ややクセのあるせいもあってか、私の中での大ヒットほど世間ではヒ

ットに欠けてしまったのが残念。ほんのちよっとだけ時代が早すぎたということでしょうか。同じライターによる「秋桜の空に」も時代先取りのゲームでしたからね。

### ■その一方で

いきなり名作姉ゲーが飛び出す中、あと一步の姉ゲーもありました。

旧時代的な年上キャラであったり、姉の特性を掘り下げきれていなかったり、主人公たる弟自身が姉好きになりきれていなかったり…

多人数姉ゲーの方法論がまだ確立されていないから、と切ってしまうえば簡単なのですが、「他が出してるからウチも話題作り」「目新しさで差別化したい」程度の認識でダメ姉ゲーを作られては、姉属性として残念。そういうゲームは、結局見抜かれて売れ行きが続かないんですけど。特定の属性に特化したゲームは、手に取る人が既に目が肥えていますから。

今回私がレビューした中の姉ゲーには、あまりに酷いと言うほどの姉ゲーはありませんでした。高くない評価をしたゲームも、姉ゲーを出そうとした心意気は買いますし、ちょっと改良すれば良くなるようなゲームばかりでした。

### ■ブームにならない程度に

これからも姉ゲーは一定数が出されていくと思いますが、大ブームにまでなっていくと思いませんが、粗製濫造されて、真の姉ゲーが埋もれてしまうことは耐えられないので。できれば月に1本程度のペースで…って多いですか！？

## タイプ別 姉ゲーガイド

### ■これから極めようという方

もし、「姉、ちゃんとしようよっ！」をまだ経験していないのなら、あなたの姉萌えレベルや遍歴を問わずにお勧めします。様々なタイプの姉が勢揃い、多人数姉ゲーとしての基本がしっかりできている、既に多くのファンが存在し、続編も約束されている等、これから始めるにあたって楽しみの多いソフトだからです。ハズレと思う人はほとんど居ないはず。

一方、「お姉ちゃんの3乗」は、総裁としては強力にお勧めする1本なのですが、初級レベルの姉萌え者だと、真のおもしろさを誤解してしまう恐れがあるように思うので難しい所。非姉属性の人でも「おもしろい！」と評する人はいるのですが、姉好きの観点から言うおもしろさとはニュアンスが異なるはず。ピントのはずれたおもしろさでは、このゲーム、勿体ないのです。

そこで「お姉ちゃんの3乗」が楽しめるかどうかの試薬として「秋桜の空に」をプレイしてみるのには良い方法。「秋桜」は「3乗」のダダ甘の萌芽であるすずねえが手軽に体験できるので、ここで慣らしてから「3乗」に挑戦が正しいと思います。

隅々まで姉好き年上好きを狙ったソフトは胸焼けしそうで…という方も居るはず。そんな場合は、やはり「TLSS」。十分なお姉ちゃん要素を持ちつつも、基本は一般の恋愛シミュレーション。普通にギャルゲーを楽しみつつ、適度なタイミングでお姉ちゃんイベントが発生して、姉萌えをほどほどに満喫できます。姉にこだわったシナリ

オもしっかり用意されているので、足りないと思うことはないでしょう。総裁自身、先輩シナリオ2本と「るり編」ですっきり元を取った気分ですから。

### ■7ランク上の姉萌え狙いは

「姉しよ」も「3乗」もすでに体験した。ここらで一つ、一途に転げられるようなお姉ちゃんに出会いたいと思っているのなら *Crescendo* をお勧め。あやめねーちゃんは信じて裏切られること無し。比較的コンパクトなシナリオに、姉萌えの要素が詰まっています、手軽ながら充実したひとときが過ごせます。

### ■やはりエッチ度重視なら

姉モノのエロゲーはリードされてナンボでしょ！濃いエロ万歳！とおっしゃる御仁には「人妻コスプレ喫茶」。人妻には特に興味がないと思っても、食わず嫌いなだけかも知れませんよ。「妻みぐい」は良かったが、食い足りないと感じている人は格好の1本だと思います。

### ■布教するなら

どうも姉になびかない知人ばかりで悩む貴弟は、やはり「姉しよ」で布教をかけましょう。姉属性でなくても、楽しさは伝わるはずだから。

布教まで行かずとも、姉萌え心も理解して欲しい場合は「秋桜」で。年下志向のキャラも擁しつつ、絶えず登場するすずねえが手なずけてくれるはずです。

あまり萌え本ではなくてゴメンナサイ。

しかも、読んで楽しめるような文章でもなく、自己満足のレビューばかりで申し訳ないです。このお姉ちゃんにける熱い魂をどう表現したらよいのか！お姉ちゃんにけるのは熱い魂ならいいけど、熱い汁だといやらしいわよね？（おねきゅーネタ）

まだまだプレイしていない姉ゲーはたくさんあるのですが、時間の制約もあり、限られた数の姉ゲーしか取り上げられませんでした。

裸足少女の「おねだり Sweetie～恋のお色直しは何度でも～」、コンプリーツ「まってい」、WINTERS「感覚の鋭い牙」、ザウス「フローラリア」等々。

今後期待する姉ゲーは、ぱれっと「愛 cute! キミに恋してる」、アズライト「お姉さん day☆by☆day」、ザウス「フローラリア+」そしてきゃんでいそふと「姉しよ2」でしょう。竹井 10 日氏が関わるゲームがあれば、それも勿論注目。

機会があれば、また姉ゲー本を出せればなあと懲りない面をみせつつ。

## 全姉連会報 創刊号

発行：全姉連 総本部

発行日：2003年12月30日

著者：全姉連総裁

連絡先：sousai@zenaneren.org

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org>

本書の発行に至るまで、全姉連を通じて多くの方から姉ゲー情報を頂きました。

ここにお礼申し上げます。

ぜひ全姉連総本部ホームページにも遊びに来てみて下さい。